

	令和8年度 1学年国語科 年間指導計画		326 大泉中学校
単元	配当時間数	学習活動・評価規準など	備考
言葉に出会うために	3	1声を届けることを意識した活動をする。 2「野原はうたう」の中で、好きな詩を選び、作者の気持ちを想像して音読する。 3ノートの書き方や言葉を調べることを意識して取り組む。	【知・技】 音読の仕方やノートの書き留め方について、理解を深めている。 【態】進んで音読し、小学校での学習を生かそうとしている。
朝のリレー	2	1詩を音読する。 2詩を読んで想像したことや、好きな言葉や表現を交流する。 3詩の特徴を生かして音読する。	【知・技】 音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) 【態】 音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
1 学びをひらく はじまりの風	4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 2 作品の全体像と場面ごとの心情を捉える。 3 心情の変化を整理する。(課題2) 4 整理した内容を基に話し合う。(課題3)	【知・技】 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) 【思・判・表】 「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) 【態】 場面の展開や心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって着目した表現や心情の変化について話し合おうとしている。
1 学びをひらく [聞く] 情報を聞き取り、要点を伝える	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 情報を的確に聞き取り、要点を伝える必要がある場面を挙げる。 2 二次元コードの音声聞き、必要な情報をメモに取る。(やってみよう①) 3 ①のメモを基に、相手に伝える内容を整理する。(やってみよう②) 4 情報を的確に聞き取るためのポイントを確認する。 ・「情報を的確に聞き取るために」で、情報を聞き取る時と、聞き取った情報を伝えると時のポイントを確認する。 5 学習を振り返る。	【知・技】 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) 【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) 【態】 聞き取った情報を進んで整理し、学習課題に沿って、要点を伝えようとしている。
1 学びをひらく 言葉1 音声の仕組みや働き	1	1 導入の課題に取り組む、音声の仕組みや働きについて関心をもつ。 2 母音と子音について理解する。 3 音の高さ・強さについて理解する。	【知・技】 音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) 【態】 声の出し方による伝わり方の違いを、試行錯誤しながら確認し、それらを生かして音声の働きや仕組みについて理解を深めようとしている。
1 学びをひらく 話の構成を工夫しよう	4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 スピーチの材料を集める。 2 話の構成を考え、練習する。 3 スピーチの会を開く。 4 学習を振り返る。	【知・技】 音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。(A(1)イ) 【態】 話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチをしようとしている。
1 学びをひらく 漢字1 漢字の組み立てと部首 漢字に親しもう1	1	1 導入部分を読み、漢字の組み立てに興味をもつ。 2 偏旁冠脚など漢字を組み立てている部分について理解する。 3 部首について理解する。 4 漢和辞典を利用して、練習問題に取り組む。 5 P40「漢字に親しもう1」の問題に取り組む。	【知・技】 学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)イ) 【態】 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
2 新しい視点で ダイコンは大きな根？	2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 文章の中心となる部分を捉える。(課題1) 3 段落の役割について考える。(課題2) 4 筆者の説明の仕方について話し合う。(課題3) 5 学習を振り返る。	【知・技】 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) 【思・判・表】 「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) 【態】 文章の中心的部分と付加的部分について積極的に捉え、今までの学習を生かして筆者の説明の工夫を伝え合おうとしている。

2 新しい視点で ちょっと立ち止まって	3	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ・P50の吹き出しを参考に、共感・納得したところや発見・気づき、疑問点等を挙げる。 2 文章の構成に着目し、要旨を捉える。 3 文章の構成に着目し、序論・本論・結論の役割を考える。 4 考えたことを伝え合う。(課題3)	【知・技】 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) 【思・判・表】 「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) 【態】 進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合うようとしている。
2 新しい視点で 情報整理のレッスン 比較・分類	1	1 学習の目的を理解する。 2 情報を比較・分類する方法を確かめる。 3 問題1～2に取り組む。 4 学習を振り返る。	【知・技】 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) 【態】 情報の整理の仕方について積極的に理解を深め、学習したことを生かして練習問題に取り組もうとしている。
2 新しい視点で 情報を整理して説明しよう 発見したことをわかりやすく書く	4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 情報を集め、整理する。 2 構成を考える。 3 文章にまとめる。 4 交流する。 5 学習を振り返る。	【知・技】 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) 【態】 集めた材料を粘り強く整理し、学習の見通しをもってわかりやすく説明する文章を書くようとしている。
2 新しい視点で 言葉2 指示する語句と接続する語句	1	1 導入の課題に取り組む、指示する語句や接続する語句について関心をもつ。 2 指示する語句について理解する。 3 接続する語句について理解する。 4 学習したことを日常につなぐ。	【知・技】 指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。((1)エ) 【態】 今までの学習を生かして、積極的に指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めようとしている。
3 言葉に立ち止まる 空の詩 三編 「書く」詩の創作教室	3	1 三つの詩を音読する。 2 詩について、感じたことを交流する。 3 詩の情景や表現の効果について話し合う。 4 最も印象に残った詩について発表する。(課題3) 5 学習を振り返る。	【知・技】 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) 【態】 詩の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。
3 言葉に立ち止まる 言葉3 ささまざまな表現技法	1	1 導入の例を読み、表現による印象の違いを挙げる。 2 P68「比喩(たとえ)」を読み、比喩の種類による印象の違いを考える。 3 P69「反復」「倒置」、P70「体言止め」「省略」「対句」を読み、表現技法によるリズムの違いや効果について考える。	【知・技】 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。((1)オ) 【態】 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法について、学習課題に沿って、積極的に理解を深めようとしている。
3 言葉に立ち止まる 比喩で広がる言葉の世界	2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読する。 2 文章の中心となる部分を見つけ、要旨を捉える。 3 比喩について理解を深める。(課題2) ・P74の図を言葉で説明し、比喩を使うかどうかでどんな違いが出るかを考える。 4 生活への生かし方を考え、伝え合う。(課題3) ・身の回りにある「比喩」や、「比喩の発想」が生かされた言葉を見つけて発表する。 5 学習を振り返る。	【知・技】 比喩などの表現の技法を理解し使っている。((1)オ) 【思・判・表】 「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) 【態】 進んで比喩について理解し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとしている。
3 言葉に立ち止まる 文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう 文法1 言葉の単位	1	1 P75の導入や教材文を読み、言葉のまとまりについて考える。 ・例文を音読し、間を取った箇所を確認する。 2 P242「文法1 言葉の単位」を読む。	【知・技】 単語の類別について理解している。((1)エ) 一文法の必要性を知り、言葉の単位とその働きについて理解している。 【態】 今までの学習を生かして、積極的に単語の類別の前提となる言葉の単位について理解しようとしている。
3 言葉に立ち止まる 語彙を豊かに 心情を表す言葉	1	1 学習の目的を理解する。 2 印象に残った出来事について、そのときの気持ちをひと言で表す。 3 気持ちを表す言葉を集める。 4 気持ちにぴったりの言葉を選ぶ。 5 学習を振り返る。	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) 【態】 今までの学習を生かして、積極的に事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使おうとしている。

情報×SDGs 情報収集の達人になろう コラム 著作権について知ろう	3	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 調べるテーマを決める。 2 図書館やウェブサイトで情報を集める。 3 情報を読み取る。 4 行動宣言をまとめる。 5 著作権について知る。 6 学習を振り返る。	【知・技】 ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】 - 引用のしかたや出典の示し方について積極的に理解を深め、今までの学習を生かして収集した情報を基に考えたことを書くようとしている。
いつも本はそばに 読書を楽しむ	1	1 教材文を通読し、さまざまな読書活動を知る。 2 「ポップ作り」、「読書会」、「読書記録」の中から、夏休みに行う活動を選ぶ。 3 活動の内容に沿って、見通しを立てる。 4 ポップ、読書会のメモや記録、読書記録を提出する。	【知・技】 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。((3)オ) 【態】 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを進んで理解し、今までの学習を生かして本の魅力や感想を伝え合おうとしている。
いつも本はそばに 本の中の中学生	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 「本の中の中学生」の作品を読む。 ・考えていることや悩んでいることが似ている登場人物、友達になれそうな登場人物はいないか、探しながら読む。 2 気に入った作品とその理由を友達と共有する。 ◇学校図書館や地域の図書館に行き読み、同じ作者が書いた別の作品や、他の作家が書いた同じテーマの本を読んだりするなど、実際に本を手取るように促す。 3 P90「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。	【知・技】 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。((3)オ) 【思・判・表】 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) 【態】 進んで文章を読み、理解したことに基づき、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
4 心の動き 大人になれなかった弟たちに……	4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 2 描写に着目して登場人物の心情を捉える。 3 題名のもつ意味について考える。(課題2) 4 表記に込められた、作者の意図を考える。 5 思いを伝える朗読会をする。(課題3) 6 学習を振り返る。	【知・技】 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。((3)オ) 【思・判・表】 「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) 【態】 登場人物の心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習したことを生かして朗読しようとしている。
4 心の動き 星の花が降るころに	5	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 「私」を中心に作品の内容を押さえる。 ・時や場所、登場人物の組み合わせなどに注意して、作品を幾つかの場面に分ける。(課題1-①) ・場面の展開に沿って、「私」の気持ちの変化を表などにまとめる。(課題1-②) 3 場面や描写を結び付けて内容を解釈する。(課題2) ・同じ物や場所が描かれている場面や描写を、図などを使って整理・比較し、どんなことが読み取れるか伝え合う。 ・「雪が降るように」のような比喩表現を探し、どんな情景や気持ちを表しているか考える。 4 印象に残った場面や描写を語り合う。(課題3) ・解釈を基に、印象に残った箇所とその理由をグループで述べ合う。 5 学習を振り返る。 ・場面や描写の結び付きを図を用いて整理することには、どんな効果があったか、自分の言葉でまとめる。 ・複数の場面や描写を結び付けて読むと、どんなことが見えてきたか、自分の言葉でまとめる。 ・読み取ったことを踏まえ、この後、作品がどう続いていくかを考えて、簡潔に書く。	【知・技】 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) 一場面や描写の結び付きを、図などを用いて整理・比較している。 【思・判・表】 「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。(C(1)ウ) 一場面ごとの状況や、場面と人物などの描写を結び付けて、内容を読み深めている。 【態】 進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。
4 心の動き 項目を立てて書く 案内文を書く	3	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 情報を整理し、構成を考える。 ・案内する事柄を決め、相手の立場に立って、伝える必要がある情報を考える。 ・身の回りの案内文なども参考に、項目を立てて情報を整理し、構成を考える。 2 案内文を書く。 ・P117「案内文の例(地域の人に)」を参考に、案内文を書く。 3 学習を振り返る。 ・互いの案内文を読み合い、意見や感想、工夫されていると思った点を伝え合う。	【知・技】 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) 一情報を項目ごとに整理することを理解し、案内文の作成に生かしている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) 【態】 必要な情報を積極的に集めて整理し、学習の見通しをもって案内文を書くようとしている。

4 心の動き [推敲]読み手の立場に立つ	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 読み手の立場に立って、案内文を推敲する。 ・P117「案内文の例(地域の人に)」を参考に、P118の地域の人に出す体育祭の案内文の下書きを下段1・2の指示に沿って書き改める。 2 書き換えた案内文について、伝えようとする内容が正確に、わかりやすく書き表されているか、友達と話し合う。 3 学習を振り返る。 ・案内文の推敲で、どんなことが大切かまとめる。	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増やすと共に、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) 【思・判・表】 「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) 【態】 粘り強く文章を推敲し、今までの学習を生かして案内文を書き改めようとしている。
4 心の動き 言葉4 方言と共通語	1	1 導入の課題に取り組み、地域による言葉の違いについて関心をもつ。 2 教材文を読み、方言と共通語の違いを理解する。 ・語句・表現・文末表現・発音の違いを知る。 ・共通語の必要性を知る。 3 P120「消滅危機言語」を読み、日本における消滅危機言語について知る。	【知・技】 共通語と方言の果たす役割について理解している。((3)ウ) →共通語と方言の役割や特徴について理解している。 【態】 今までの学習を生かして、積極的に共通語と方言の果たす役割について理解しようとしている。
4 心の動き 聞き上手になろう 質問で話を引き出す	2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 聞き方や質問の仕方を学ぶ。 2 二人一組で対話の練習をする。 3 学習を振り返る。 ・それぞれの立場から、気付いたことや考えたことを出し合う。	【知・技】 音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) 【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) 【態】 進んで質問しながら話の内容を捉え、学習したことを生かして話を引き出そうとしている。
4 心の動き 漢字2 漢字の音訓 漢字に親しもう2	1	1 導入部分を読み、漢字の読みには「音」と「訓」があることを理解する。 2「音」と「訓」の歴史や性質を理解する。 ・複数の読みがある漢字や熟語について考える。 3 漢和辞典を利用して、練習問題に取り組む。 4 P126「漢字に親しもう2」の問題に取り組む。	【知・技】 学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)イ) 【態】 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
5 筋道を立てて 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ	5	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読する。 2 文章の構成と内容を捉える。 3 文章の構成や展開の効果を、根拠を明確にして考える。 4 文章を読んで、考えたことを話し合う。(課題3) 5 学習を振り返る。	【知・技】 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) 【態】 文章の構成や展開について粘り強く考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。
5 筋道を立てて 思考のレッスン1 意見と根拠	1	1 P138上段の文章を読み、意見の根拠を明確に示すことの大切さを理解する。 2 適切な根拠について考える。 3 意見と根拠の結び付きを考える。 4 学習を振り返る。	【知・技】 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【態】 根拠の客観性や理由づけに無理がないかを積極的に検討し、学習課題に沿って、意見と根拠の関係について理解を深めようとしている。
5 筋道を立てて 根拠を明確にして書こう 資料を引用して報告する	5	1 課題を決め、調べる。 2 構成を考える。 3 レポートを書く。 4 レポートを読み合い、交流する。 5 学習を振り返る。	【知・技】 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) 【思・判・表】 -「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) 【態】 根拠を明確に示すことを粘り強く考え、学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。
5 筋道を立てて 漢字に親しもう3	1	1 新出漢字を確認する。 2 練習問題に取り組む。	【知・技】 学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)イ) 【態】 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

5 筋道を立てて 文法への扉2 言葉の関係を考えよう 文法2 文の組み立て	2	1 P147の導入や教材文を読み、言葉の関係について考える。 ・分かりやすく伝えるためには文節どうしの関係を理解する必要があることに気付く。 2 P246「文法2 文の組み立て」を読み、「文節どうしの関係」「連文節」「文の成分」「文の組み立て」を理解する。	【知・技】 単語の類別について理解している。((1)エ) 【態】 今までの学習を生かして、積極的に単語の類別の前提となる文の組み立てについて理解しようとしている。
5 筋道を立てて 聴きひたる 大阿蘇	1	1 朗読音声を聴き、言葉の響きやリズムを味わう。 ・繰り返し表現や、繰り返ししながら変化していく表現などに注目する。 ・新出漢字を調べる。 2 詩の朗読を聞いて感じたことや考えたことを交流する。	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増やすと共に、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) 【態】 進んで言葉の響きやリズムを味わい、語感を磨きながら、今までの学習を生かして詩を味わおうとしている。
6 いにしえの心にふれる 古典の世界 音読を楽しむ いろは歌	1	1 P152「古典の世界」を読み、3年間の古典学習について見通しをもつ。 ・和歌や物語、随筆、漢文・漢詩など、3年間で様々な古典作品に触れることを知る。 2 P154「いろは歌」を音読する。 ・リズムを味わいながら繰り返し音読する。 ・三段目の現代語訳と関連づけながら読む。	【知・技】 ・古典には様々な種類の作品があることを知っている。((3)イ) ・音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) 【態】 積極的に古文を繰り返し音読し、3年間の学習の見通しをもって、古典の世界に親しもうとしている。
6 いにしえの心にふれる 蓬萊の玉の枝 ——「竹取物語」から	4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 古典の文章を音読し、現代の文章との違いを確かめる。 2 現代語訳やP169「古典の言葉」を参考に、現代の文章との違いを確かめる。(課題1～2) 3 作品の内容を読み取り、古典の世界を想像する。(課題2) 4 学習を振り返る。	【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ) 【態】進んで古文を音読し、今までの学習を生かして描かれている古典の世界を想像しようとしている。
6 いにしえの心にふれる 今に生きる言葉 [書く]故事成語を使って体験文を書こう	3	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 漢文を、リズムを味わいながら音読する。(課題1) 2 本文を読み、故事成語について理解する。 3 自分の生活と結び付けて考える。(課題3) 4 学習を振り返る。	【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ) ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) 【態】積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書こうとしている。
7 価値を見いだす 「不便」の価値を見つめ直す [書く]筆者の主張に対する自分の意見を書こう	4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読し、内容を捉える。 2 本文を要約し、筆者の主張について検討する。 3 筆者の主張に対する自分の意見を書く。(課題3) 4 学習を振り返る。	【知・技】 ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。(C(1)ウ) 【態】 必要な情報に着目して、粘り強く要約し、試行錯誤しながら自分の考えを文章にまとめようとしている。
7 価値を見いだす 思考のレッスン2 原因と結果	1	1 P186の例題や問題1から、原因と結果を抜き出し、どのようにつながっているかを整理する。 2 P187の例題や問題2から、原因と結果のつながりに無理がある例を確かめ、パターン別に整理する。 3 学習を振り返る。 ・話の筋道を理解したり、筋道を立てて書いたり話したりする際には、原因と結果の関係に気を付けることが大切であることを確認する。	【知・技】 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【態】 今までの学習を生かして、積極的に原因と結果の関係について理解しようとしている。
7 価値を見いだす 漢字に親しもう4	1	1 新出漢字を確認する。 2 練習問題に取り組む。	【知・技】 学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)イ) 【態】 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

7 価値を見いだす [話し合い(進行)] 進め方について考えよう	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 二次元コードの動画を視聴し、「やってみよう」①②に取り組む。 →二次元コード「話し合いの様子」 2 P190「よりよい話し合いにするために」を読み、話し合うときに効果的な工夫について理解する。 →P272「語彙ブック」(思考するときの言葉) 3 学習を振り返る。 ・話し合いをよりよく進めるために、どのようなことに気を付ければよいか、自分の言葉でまとめる。	【知・技】 意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) 【態】 進んで話題や展開を捉え、学習課題に沿って、話し合いをより良く進めるために気を付けることについて、考えをまとめようとしている。
7 価値を見いだす 話題や展開を捉えて話し合おう グループで語り合い、ものの見方を広げる	4	1 話し合いの目的と話題を確認する。 2 自分の意見をまとめる。 ・自分の意見と、そう考える根拠をノートに書き出す。 3 グループで語り合う。 ・録画しながら、話題や展開を捉えて語り合う。 ・付箋を使って整理するなど、話し合いを可視化しながら進める。 4 話し合いを振り返る。 ・録画を視聴して話し合いを振り返り、効果的だと感じた発言などを共有する。 ・グループでの話し合いの結果を、代表者がクラス全体に報告する。 5 学習を振り返る。	【知・技】 意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →自分の考えをまとめる際に、意見に対する根拠を考えている。 【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) →話し合いの話題や展開に沿って、互いの発言を結び付けながら話したり、自分の考えをまとめたりしている。 【態】 積極的に互いの発言を結び付けて考え、学習の見通しをもってグループで話し合いをしようとしている。
書写	20	硬筆 1 点画の組み立て方・変化・連続について実践を通して確認する。 2 筆順について、実践を通して、法則と意味を理解し、整った字形を書く。 3 古典作品「竹取物語」を楷書で書く。 毛筆 ・書初め ・楷書・行書の書き方	【知・技】 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書いている。 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書いている。 【態】 根気強く漢字と仮名のバランスを考え、これまでの学習を生かして、楷書や行書で文字を書こうとしている。

令和8年度

1 学年 社会科 年間指導計画・評価計画

担当 [松本 維志]

教科の目標	指導・評価の重点および工夫点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。	・知識に結びつく用語等を分かりやすく提示し、覚える内容を基礎・基本となる最小限の内容に抑える。 ・社会科の3技能「情報を収集する、情報を読み取る、情報をまとめる」を単元や各授業で効果的に設定し、定着・活用させる場面を設定する。	・単元を見通した問いを追究させる学習過程を設定し、学んだことを整理し、関連付け、まとめる等の学習事項を大観する場面をつくる。 ・各授業の振り返りをワークシートやタブレット等を用いて実施し、各授業や単元全体で学んだ内容をまとめ、他者へ向けて伝える学習場面を設定する。	・単元を見通した問いを生徒自身で設定させ、自分たちの作った課題を追究させる。 ・単元の問いに対する各自の予想である「見通し」を設定させ、各授業での学びが課題追究となるように学習場面を設定する。 ・生徒の疑問や知りたいことをできる限り授業に反映して、授業を構築する。	・クラスルームや振り返りワークシートを活用し、生徒の学習状況を把握し、助言や指導を実施するなど、学習改善につながる評価をこまめに行う。 ・記録に残す評価については、評価基準を生徒と共有し、生徒自身が目指す目標や課題を設定できるように指導する。

◎単元（1～数十時間の学習内容のまとまり）は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICTとの関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	歴史 第1章 歴史へのとびら 教材 教科書、資料集等	タブレット 大型モニター	4	単元の問い(仮)「歴史を学習するうえで気を付けるべきポイントはなんだろう」		
				○年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。 ○資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けている。	○時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現している。	○教科書の読み方を意識しながら、見通しと課題意識をもって、歴史を追究する学習に取り組もうとしている。 ○単元を見通した問いに対する見通しをもち、振り返りを行いながら、粘り強く取り組もうとしている。
4 5	歴史 第2章 1 世界の古代文明と宗教のおこり 教材 教科書、資料集等	タブレット 大型モニター	7	単元の問い(仮)「人類はどのような歴史をたどって文明を形づくっているのだろう。」		
				○世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。	○古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこりについて、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	○世界の古代文明や宗教のおこりについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ○単元を見通した問いに対する見通しをもち、振り返りを行いながら、粘り強く取り組もうとしている。
6	歴史 第2章 2 日本列島の誕生と大陸との交流 教材 教科書、資料集等	タブレット 大型モニター	6	単元の問い(仮)「日本列島では、どのような歴史をたどって国家が形づくられていったのだろう。」		
				○日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷(大和政権)による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解している。	○農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本列島における国家形成について、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	○日本列島における国家形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ○単元を見通した問いに対する見通しをもち、振り返りを行いながら、粘り強く取り組もうとしている。

7 9	歴史 第2章 3 古代国家の歩みと東アジア世界 教材 教科書、資料集	タブレット 大型モニター	7	単元の問い(仮)「東アジアでの交流の中で、どのように律令国家が成立し、変化していったのだろう。」		
				○律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。 ○仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。	○東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、律令国家の形成、古代の文化と東アジアとの関わりについて、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	○律令国家の形成、古代の文化と東アジアとの関わりについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ○単元を見通した問いに対する見通しをもち、振り返りを行いながら、粘り強く取り組もうとしている。
9 10	歴史 第3章 1 武士の政権の成立 教材 教科書、資料集等	タブレット 大型モニター	7	単元の問い(仮)「武士はどのようにしておこり、成長していったのだろう。」		
				○鎌倉幕府の成立などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったことを理解している。	○武士の政治への進出と展開、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	○武家政治の成立について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ○単元を見通した問いに対する見通しをもち、振り返りを行いながら、粘り強く取り組もうとしている。
10 11	歴史 第3章 2 ユーラシアの動きと武士の政治の展開 教材 教科書、資料集等	タブレット 大型モニター	8	単元の問い(仮)「東アジアでの交流や産業・文化が発達する中で、民衆はどのようにして力を持つようになったのだろう。」		
				○元寇(モンゴル帝国の襲来)などを基に、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。 ○南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開と共に、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。 ○農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。	○武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、ユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	○ユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ○単元を見通した問いに対する見通しをもち、振り返りを行いながら、粘り強く取り組もうとしている。
11 12	歴史 第4章 1 ヨーロッパ人との出会いと全国統一 教材 教科書、資料集等	タブレット 大型モニター	8	単元の問い(仮)「ヨーロッパ人との出会いを経て、なぜ戦乱の世が終わりをむかえたのだろう。」		
				○ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎が作られたことを理解している。	○交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の動きと統一事業について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	○世界の動きと統一事業について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ○単元を見通した問いに対する見通しをもち、振り返りを行いながら、粘り強く取り組もうとしている。

1 2	地理 第2部 第2章 世界の諸地域 アジア州 教材 教科書、資料集等	タブレット 大型モニター	8	単元の問い(仮)「アジア州における急速な経済成長や経済格差の拡大は、地域にどのような変化を及ぼしているだろう。」		
				○アジア州をいくつかの地域に分けて人口増加と急激な経済発展による様々な影響を整理し、地域ごとの違いを踏まえながらアジア州全体の地域的特色や課題を理解している。	○他地域との結びつきやアジア州という地域に着目し、人口増加と急激な経済発展を取り上げて、アジア州に暮らす人々に与える影響やそれによって生じる課題を多面的・多角的に考察、表現させる。	○人口増加と急激な経済発展を中心に、アジア州に暮らす人々に与える影響やそれによって生じる課題を主体的に追究し解決しようとしている。 ○単元を見通した問いに対する見通しをもち、振り返りを行いながら、粘り強く取り組みようとしている。
2	地理 第2部 第2章 世界の諸地域 ヨーロッパ州 教材 教科書、資料集等	タブレット 大型モニター	8	単元の問い(仮)「ヨーロッパ州では、国の結びつきが強まることで地域にどのような影響が生じているのだろうか。」		
				○ヨーロッパ州に暮らす人々の生活を基に、ヨーロッパ州の地域的特色を大観し、EU 統合や文化の多様性に関わる課題が地域的特色の影響を受けて独自の様相を見せていることを理解する。	○他地域との結びつきや地域などに関わる視点に着目して、EU 統合や文化の多様性に関わる課題の要因や影響をヨーロッパ州の地域的特色と関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現している。	○日本との比較をまじえながら、ヨーロッパ州の人々の生活に関心をもち、地域的特色及び EU 統合や文化の多様性に関わる課題を意欲的に追究しようとしている。 ○単元を見通した問いに対する見通しをもち、振り返りを行いながら、粘り強く取り組みようとしている。
3	地理 第2部 第2章 世界の諸地域 アフリカ州 教材 教科書、資料集等	タブレット 大型モニター	7	単元の問い(仮)「アフリカ州の国々では、特定の産物に頼る経済が、地域にどのような影響を与えているのだろうか。」		
				○アフリカ州の人々の生活や産業の特色を歴史的背景を踏まえて理解していると共に、資料からアフリカ諸国とヨーロッパ諸国との関係の深さを調べまとめている。	○一つの国が輸出品を特定の農産物や鉱産資源にたよるようになった原因を追及し、そのような貿易形態の問題点を多面的多角的に考察し、解決に向けて選択・判断している。	○モノカルチャー経済やヨーロッパとの関係に着目しながら、アフリカ州の地域的特色に関心を高め、課題の解決を主体的に追究しようとしている。 ○単元を見通した問いに対する見通しをもち、振り返りを行いながら、粘り強く取り組みようとしている。
評価材および評価方法				【学習改善につながる評価】 授業観察および机間指導、ワークシートの記述へのコメント 【記録に残す評価】 ワークシート、定期考査の達成状況	【学習改善につながる評価】 授業観察および机間指導、ワークシートの記述へのコメント 【記録に残す評価】 ワークシート、定期考査の達成状況	【学習改善につながる評価】 授業観察および机間指導、ワークシートの記述へのコメント 【記録に残す評価】 ワークシートの達成状況 主体的な調べ学習の達成状況

令和8年度

1 学年 社会科 年間指導計画・評価計画

担当 [名取]

教 科 の 目 標	指 導 ・ 評 価 の 重 点 お よ び 工 夫 点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。	・知識に結びつく用語等を分かりやすく提示し、覚える内容を基礎・基本となる最小限の内容に抑える。 ・社会科の3技能「情報を収集する、情報を読み取る、情報をまとめる」を単元や各授業で効果的に設定し、定着・活用させる場面を設定する。	・単元を見通した問いを追究させる学習過程を設定し、学んだことを整理し、関連付け、まとめる等の学習事項を大観する場面をつくる。 ・各授業の振り返りをワークシートやタブレット等を用いて実施し、各授業や単元全体で学んだ内容をまとめ、他者へ向けて伝える学習場面を設定する。	・単元を見通した問いを生徒自身で設定させ、自分たちの作った課題を追究させる。 ・単元を見通した問いに対する各自の予想である「見通し」を設定させ、各授業での学びが課題追究となるように学習場面を設定する。 ・生徒の疑問や知りたいことをできる限り授業に反映して、授業を構築する。	・クラスルームなどを活用し、生徒の学習状況を把握し、助言や指導を実施するなど、学習改善につながる評価をできる限りこまめに行う。 ・記録に残す評価については、評価規準を生徒と共有した上で、(全員B基準以上を前提として) 生徒自身が目指す目標を設定できるようにする。

◎単元（1～数十時間の学習内容のまとめ）は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICTとの関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 5	地理 第1部 第1章 世界の姿 教材 教科書、資料集等	タブレット 大型モニター	5	単元の問い(仮)「世界にはどのような国があり、その位置を表すには、どのような方法があるだろうか。」		
				○緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解している。	○世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。	○世界の地域構成について、より良い社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ○単元を見通した問いに対する見通しをもち、振り返りを行いながら、粘り強く取り組もうとしている。
6 7	地理 第1部 第1章 日本の姿 教材 教科書、資料集等	タブレット 大型モニター	5	単元の問い(仮)「地図や様々な地域区分を用いて、日本の姿をとらえる方法を考えよう。」		
				○我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し理解している。	○日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。	○日本の地域構成について、より良い社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ○単元を見通した問いに対する見通しをもち、振り返りを行いながら、粘り強く取り組もうとしている。
7 9 10	地理 第2部 第1章 人々の生活と環境 教材 教科書、資料集	タブレット 大型モニター	9	単元の問い(仮)「世界各地の人々の生活は、自然環境とどのような関わりがあるのだろうか。」		
				○人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。 ○世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解している。その際、世界の主な宗教の分布についても理解している。	○世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。	○世界各地の人々の生活と環境について、より良い社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ○単元を見通した問いに対する見通しをもち、振り返りを行いながら、粘り強く取り組もうとしている。

11 12	地理 第2部 第2章 世界の諸地域 北アメリカ州 教材 教科書、資料集	タブレット 大型モニター	6	単元の問い(仮)「アメリカ合衆国を中心に世界をリードする産業が発展した北アメリカ州は、持続可能な発展を続けることができるだろうか。」		
				○多様な民族が暮らすアメリカ合衆国において、広大な国土を利用して大規模な農業が行われていることや世界をリードし続けている工業の姿について理解しまとめている。	○北アメリカ州の地域的特色や課題を、そこに暮らす人々の生活の様子を基に、多面的・多角的に考察している。	○世界に大きな影響を与える北アメリカ州の産業や文化について主体的に追究し、課題を解決しようとしている。 ○単元を見通した問いに対する見通しをもち、振り返りを行いながら、粘り強く取り組もうとしている。
1 2	地理 第2部 第2章 世界の諸地域 南アメリカ州 教材 教科書、資料集等	タブレット 大型モニター	6	単元の問い(仮)「なぜ、ブラジルを中心とした南アメリカ州での産業の発展が、地球規模の環境問題に関連しているのだろうか。」		
				○多様な文化を受け入れながら独自の文化を形成してきた歩みと、経済成長をとげた国とそうでない国とが共存する地域の姿を理解するとともに、ブラジルでは経済発展が進む一方で、経済格差などの問題が生じていることを、本文や資料から調べまとめている。	○近年の顕著なブラジルの経済成長の要因と、経済成長と共に環境問題が起きていることやその解決を多面的・多角的に考察している。	○多民族の共存や近年の経済成長に着目しながら、南アメリカ州の地域的特色と農地や鉱山の開発の地域に対する影響を主体的に追究し、解決しようとしている。 ○単元を見通した問いに対する見通しをもち、振り返りを行いながら、粘り強く取り組もうとしている。
2 3	地理 第2部 第2章 世界の諸地域 オセアニア州 教材 教科書、資料集等	タブレット 大型モニター	4	単元の問い(仮)「なぜ、オセアニア州では多様な文化が生活の中に根付いているのだろうか。」		
				○自然環境の影響を受けながら生活するオセアニア州に暮らす人々の様子と、多文化社会の問題点を克服しながら多様な民族が共存するオーストラリアやニュージーランドの社会を理解すると共に、地図や統計資料などから、オセアニア州とアジア州との深い関係を調べまとめている。	○オセアニア州の国々が、旧宗主国であるヨーロッパの国と密接な関係を保ちながら、近年アジアとのつながりを深めている理由や課題を多面的・多角的に考察している。	○広大な海洋を背景に展開される生活や、オーストラリアやニュージーランドの多文化社会に着目しながら、オセアニア州の地域的特色や地域の新たな課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ○単元を見通した問いに対する見通しをもち、振り返りを行いながら、粘り強く取り組もうとしている。
評価材および評価方法				【学習改善につながる評価】 授業観察および机間指導、ワークシートの記述へのコメント 【記録に残す評価】 ワークシート、定期考査の達成状況	【学習改善につながる評価】 授業観察および机間指導、ワークシートの記述へのコメント 【記録に残す評価】 ワークシート、定期考査の達成状況	【学習改善につながる評価】 授業観察および机間指導、ワークシートの記述へのコメント 【記録に残す評価】 ワークシートの達成状況

0 章 算数から数学へ (4 時間)

毎時の評価規準例

実施 予 定 月	節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	1 整数の性質	九九表のきまりを見つけよう (教科書 p. 11～13)	1	九九表の数の並びから、いろいろなきまりを見だし、説明することができる。	・九九表の数の並びから、いろいろなきまりを見だし、説明する。 ・九九表を縦 2 ます横 2 ますの正方形で囲むと、斜めの数どうしの積が等しくなることを確かめる。		○九九表の数の並びから、いろいろなきまりを見だし、説明することができる。	○自然数をいくつかの数の積で表すことにより、整数の性質を見いだそうとしている。
		整数の性質 (教科書 p. 14～18)	2	素因数分解の意味を理解する。	・九九表を縦 2 ます、横 2 ますの正方形で囲むと、斜めの数どうしの積が等しくなる理由を説明する。 ・素因数分解の意味を知る。 [用語・記号]自然数、素数、素因数分解する	○素因数分解の意味を理解している。	○九九表を縦 2 ます、横 2 ますの正方形で囲むと、斜めの数どうしの積が等しくなる理由を考え、説明することができる。	
			3	素因数分解の一意性や累乗の意味を理解し、自然数を素因数分解することができる。	・素因数分解の方法を考え、どんな順序で行っても同じ結果になることを知る。 ・九九表の数を素因数分解し、どんな数の積で表されるかを調べる。 [用語・記号] 2 乗、3 乗、平方、立方、累乗、指数	○素因数分解の一意性や累乗の意味を理解し、自然数を素因数分解することができる。	○九九表の数を素因数分解した結果から、九九表の数は、素数の 2、3、5、7、それらの積と 1 だけでつくられていることを見だし、説明することができる。	
			4	自然数を素因数分解した式から、もとの数の約数や、もとの数がどんな数の倍数であるかを求めることができる。	・自然数を素因数分解した式から、もとの数の約数や、もとの数がどんな数の倍数であるかを求める。	○自然数を素因数分解した式から、もとの数の約数や、もとの数がどんな数の倍数であるかを求めることができる。		

1章 数の世界をひろげよう【正負の数】 (25時間)

毎時の評価規準例

実施 予 定 月	節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	1	小さい数から大きい数をひくには？ (教科書 p.19～21)	1	正負の数の必要性和意味を理解する。	・ひき算の九九表を完成させるためには、どんな数が必要であるかを考える。 ・0より小さい数を身のまわりから探し、気温を例にして「－」のついた数がどんなことを表しているかを考える。 ・＋、－の符号や正の数、負の数の意味を知る。 [用語・記号] ー、マイナス、＋、プラス、正の符号、負の符号、正の数、負の数	○正負の数の必要性和意味を、具体的な場面と結びつけて理解している。		○正負の数の必要性和意味を考えようとしている。
		1 符号のついた数 (教科書 p.22～24)						
			2	反対の性質をもつ量や基準とのちがいを、正負の数を用いて表すことができる。	・反対の性質をもつ量や基準とのちがいを、正負の数を使って表す。 ・正負の数で表された数量の意味を読みとる。	○反対の性質をもつ量や基準とのちがいを、正負の数を使って表したり、正負の数で表された数量の意味を読みとったりすることができる。		
		2 数の大小 (教科書 p.25～27)	3	正負の数を数直線上に表すことができる。また、数直線を使って正負の数の大小を考え、その関係を不等号を使って表すことができる。	・算数で学習した数直線を負の数の範囲にひろげる。 ・正負の数を数直線上に表す。 ・数直線を使って正負の数の大小を考え、その関係を不等号を使って表す。 [用語・記号] 原点、正の方向、負の方向	○数直線上の位置と正負の数の大小の関係を理解している。 ○数直線を使って正負の数の大小を考え、その関係を不等号を使って表すことができる。		○正負の数の大小関係を考えようとしている。
			4	絶対値の意味を理解し、絶対値をもとにして正負の数の大小を考え、その関係を不等号を使って表すことができる。	・絶対値をもとにして正負の数の大小を考え、不等号を使って表す。 [用語・記号] 絶対値	○絶対値の意味を理解し、絶対値を求めることができる。 ○絶対値をもとにして正負の数の大小を考え、その関係を不等号を使って表すことができる。		
		基本の問題 (教科書 p.28)						
5	2	正負の数のたし算はどうなるのかな？ (教科書 p.29)	5	東西への移動をもとにして、正負の数の加法の意味を考えることができる。	・東西への移動をもとにして、正負の数で、2つの数のたし算を考える。 ・加法の意味を知る。 [用語・記号] 加法	○正負の数の加法の意味を理解している。	○正負の数の加法を、東西への移動をもとにして考え、説明することができる。	○正負の数の加法の計算方法を考えようとしている。
		1 加法 (教科書 p.30～33)	6	正負の数の加法の計算ができる。	・同符号、異符号の数の加法について、加えた2つの数と和の符号や絶対値に着目して、計算方法を考える。 ・正負の数の加法の計算をする。 ・0との加法について考える。 ・分数や小数の加法の計算をする。	○正負の数の加法の計算方法を理解し、計算ができる。	○同符号、異符号の数の加法について、加えた2つの数と和の符号や絶対値に着目して、計算方法を見だし、説明することができる。	

5	6		7	正負の数では、加法の交換法則と結合法則が成り立つことを理解し、いくつかの数の加法をくふうして計算することができる。	・算数で学習したたし算の計算法則が、正負の数でも成り立つかどうかを調べる。 ・加法の交換法則、結合法則を利用して、いくつかの数の加法を計算する。 [用語・記号] 加法の交換法則、加法の結合法則	○正負の数では加法の交換法則と結合法則が成り立つことを理解し、いくつかの数の加法をくふうして計算できる。		
		2 減法 (教科書 p. 34～36)	8	正負の数の減法の意味を、加法をもとにして考え、理解することができる。	・減法を加法の逆算とみて、正負の数で、2つの数のひき算を考える。 ・減法の意味を知る。 ・数直線を使って、正負の数の減法の計算方法を考える。 [用語・記号] 減法	○正負の数の減法の意味を理解している。	○算数で学習したひき算と関連づけて、正負の数の減法を、数直線を使って考え、説明することができる。	○正負の数の減法の計算方法を考えようとしている。
			9	正負の数の減法を、加法になおして計算することができる。	・正負の数の減法の計算をする。 ・0 からある数をひくこと、ある数から 0 をひくことについて考える。 ・分数や小数の加法の計算をする。	○正負の数の減法の計算方法を理解し、計算ができる。		
		3 加法と減法の混じった計算 (教科書 p. 37～39)	10	正負の数の加法と減法の混じった式を、項の和とみることができる。	・正負の数の加法と減法の混じった式を、項の和とみる。 ・正負の数の加法と減法の混じった式を、項を書き並べた式に表す。 [用語・記号] 項	○正負の数の項の和の意味を理解している。	○正負の数の加法と減法の混じった式を、項の和とみることができる。	○正負の数の加法と減法の混じった式の計算の方法を考えようとしている。
			11	正負の数の加法と減法の混じった式の計算ができる。	・正負の数の加法と減法の混じった式の計算をする。	○正負の数の加法と減法の混じった式の計算方法を理解し、計算ができる。		
		基本の問題 (教科書 p. 40)	12					
6	3 乗法と除法	正負の数のかけ算はどうなるのかな？ (教科書 p. 41)	13	東西への移動をもとにして、正負の数の乗法の意味を考え、理解することができる。	・九九表を負の数の範囲にひろげて、2つの数のかけ算を調べる。 ・東西への移動をもとにして、正負の数で、2つの数のかけ算を考える。 ・乗法の意味を知る。 [用語・記号] 乗法	○正負の数の乗法の意味を理解している。	○正負の数の乗法を、東西への移動をもとにして考え、説明することができる。	○正負の数の乗法の計算方法を考えようとしている。
		1 乗法 (教科書 p. 42～47)		14	正負の数の乗法の計算ができる。	・正負の数の乗法の計算をする。 ・小数や分数の乗法を計算する。 ・ある数と－1 との積を考える。 ・ある数と 1 や 0 との積を考える。	○正負の数の乗法の計算方法を理解し、計算ができる。	
			15	正負の数で、乗法の交換法則と結合法則が成り立つことを理解し、いくつかの数の乗法をくふうして計算することができる。	・算数で学習したかけ算の計算法則が、正負の数でも成り立つかどうかを調べる。 ・乗法の交換法則、結合法則を利用して、いくつかの数の乗法を計算する。 [用語・記号] 乗法の交換法則、乗法の結合法則	○正負の数では乗法の交換法則と結合法則が成り立つことを理解し、いくつかの数の乗法をくふうして計算できる。		
			16	正負の数の累乗の計算ができる。	・正負の数の累乗の計算をする。	○正負の数の累乗の計算ができる。	○ $(-a)^2$ と $-a^2$ のちがいを、積の形に表して説明することができる。	

7		2 除法 (教科書 p. 48～51)	17	正負の数の除法を、乗法の逆算をもとにして考え、正負の数の除法の計算ができる。 ・ 除法を乗法の逆算とみて、正負の数で、2 つの数のわり算を考える。 ・ 除法の意味を知る。 ・ 0 をある数でわった商は 0 になること、0 でわる除法は考えないことを知る。 ・ 正負の数の除法の計算をする。 ・ 分子や分母が負の数の分数の表し方を考える。 [用語・記号] 除法	○正負の数の除法の計算方法を理解し、計算ができる。	○除法を乗法の逆算とみて、正負の数の除法の計算方法を考え、説明することができる。	○正負の数の除法の計算方法を考えようとしている。	
			18	正負の数の除法を、逆数を使って乗法になおして計算することができる。 ・ 正負の数の逆数を考える。 ・ 正負の数の除法は、わる数の逆数をかけることと同じであることを確認する。 ・ 除法を乗法になおして計算する。 ・ 四則の意味を知る。 [用語・記号] 逆数、四則	○正負の数の除法は、わる数の逆数をかけることと同じであることを理解し、逆数を使って乗法になおして計算できる。	○誤りのある正負の数の除法の計算について、誤りを指摘することができる。		
		3 四則の混じった計算 (教科書 p. 52～53)	19	正負の数の四則の混じった計算ができる。 ・ 正負の数の四則の混じった式を、計算順序にしたがって計算する。 ・ 算数で学習したかっこのある式の計算のくふうが、正負の数でも成り立つかどうかを調べる。	○正負の数の四則の混じった式の計算順序を理解し、計算ができる。		○正負の数の四則の混じった計算の計算方法を考えようとしている。	
			20	正負の数の分配法則を利用した計算ができる。 ・ 分配法則を利用して、正負の数の計算をする。 [用語・記号] 分配法則	○正負の数では分配法則が成り立つことを理解し、分配法則を利用した計算ができる。			
		4 数の範囲と四則 (教科書 p. 54～55)	21	数の範囲と四則計算の可能性について調べ、その関係を考えることができる。 ・ 自然数どうしの加法、減法、乗法、除法の表を完成させるためには、どんな数が必要であるかを考える。 ・ 数の範囲とその範囲でいつでもできる四則について調べる。		○数の集合と四則計算の可能性について捉え直すことができる。	○数の範囲と四則計算の可能性の関係を調べようとしている。	
		基本の問題 (教科書 p. 56)	22					
		7	4 正負の数の利用	身長の平均をくふうして求めてみよう (教科書 p. 57～58)	23	正負の数を利用して、身長平均をくふうして求める方法を考え、説明することができる。 ・ 身長平均を、基準を決めてくふうして求める方法を考え、説明する。 ・ 複数の考え方を比べて、似ているところやちがうところを話し合う。	○具体的な場面で正負の数を使って表したり処理したりすることができる。	○正負の数を利用して、身長平均をくふうして求める方法を考え、説明することができる。
1 正負の数の利用 (教科書 p. 59)	24			身のまわりの問題を、正負の数を利用して解決することができる。 ・ 正負の数を利用して、売れたパンの個数の平均をくふうして求める。 ・ 正負の数で表された前の地点との標高差をもとにして、基準の位置との標高のちがいを調べる。	○身のまわりの問題を、正負の数を利用して解決することができる。			
章の問題A (教科書 p. 60)			25					
評価基準						定期考查、単元テスト、ドリル、授業課題	定期考查、単元テスト、小テスト、授業課題	提出物（問題集、ドリル、レポート、振り返りシート等）の取組状況

2 章 数学のことばを身につけよう【文字と式】 (18 時間)

毎時の評価規準例

実施 予 定 月	節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
9	1 文字を使った式	棒の本数を求めてみよう (教科書 p. 63～65)	1	正方形をつなげた棒の本数の求め方を自分なりの方法で考え、式や図を使って説明することができる。	・正方形を 5 個つなげた棒の本数の求め方を考え、式や図を使って説明する。 ・正方形を 20 個つなげた棒の本数を求める。		○正方形をつなげた棒の本数の求め方を考え、式や図を使って説明することができる。	○正方形をつなげた棒の本数の求め方を考えようとしている。
		1 文字の使用 (教科書 p. 66～67)	2	文字を用いることの必要性和意味を理解し、具体的な数量を、文字を使った式で表すことができる。	・文字を用いることの必要性和意味を知る。 ・具体的な数量を、文字を使った式で表す。 ・具体的な数量を表した文字が、どんな数の代わりとして使われているかを考える。	○文字を用いることの必要性和意味を理解している。 ○具体的な数量を、文字を使った式で表すことができる。	○具体的な数量を表した文字が、どんな数の代わりとして使われているかを考察することができる。	○文字を用いることの必要性和意味を考えようとしている。
		2 文字を使った式の表し方 (教科書 p. 68～72)	3	文字式での積の表し方にしたがって、式を表すことができる。	・具体的な数量を、積の表し方にしたがって、文字を使った式で表す。 ・文字式での積の表し方にしたがって、式を表す。	○文字式での積の表し方のきまりを理解し、文字式での積の表し方にしたがって式を表すことができる。		
			4	文字式での累乗や商の表し方にしたがって、式を表すことができる。	・文字式での累乗の表し方にしたがって、式を表す。 ・文字式での商の表し方にしたがって、式を表す。	○文字式での累乗の表し方のきまりを理解し、累乗の表し方にしたがって式を表すことができる。 ○文字式での商の表し方のきまりを理解し、商の表し方にしたがって式を表すことができる。		
			5	単位の異なる数量どうしの和や差を、単位をそろえた式に表すことができる。また、割合や速さに関する数量を、文字を使った式で表したり、文字を使った式が表す数量を読みとったりすることができる。	・単位の異なる数量どうしの和や差を、単位をそろえた式に表す。 ・割合に関する数量を、文字を使った式で表す。 ・速さに関する数量を、文字を使った式で表す。 ・文字を使った式が表す具体的な数量を、読みとる。	○単位の異なる数量どうしの和や差の表し方を理解し、単位をそろえた式に表すことができる。 ○割合に関する数量を、文字を使った式で表すことができる。 ○速さに関する数量を、文字を使った式で表すことができる。 ○文字を使った式が表す数量を、読みとることができる。		
			6	π の意味を理解し、円周の長さや円の面積を、文字を使った式で表したり、文字を使った式が表す数量を読みとったりすることができる。	・ π の意味を知る。 ・円周の長さや円の面積を、文字を使った式で表す。 ・文字を使った式が表す具体的な数量を、読みとる。 [用語・記号] π	○ π の意味と π を使った式の表し方のきまりを理解し、文字を使った式で表すことができる。 ○文字を使った式が表す数量を、読みとることができる。		

		3 代入と式の値 (教科書 p. 73～74)	7	文字に数を代入することや式の値の意味を理解し、式の値を求めることができる。	・文字に数を代入することや式の値の意味を知る。 ・式の中の文字に数を代入して、式の値を求める。 [用語・記号] 代入する、式の値	○文字に数を代入することや式の値の意味を理解し、式の値を求めることができる。		
		基本の問題 (教科書 p. 74)	8					
10	2 文字式の計算	棒の本数を求める式は？ (教科書 p. 75)	9	棒の本数を求める式から、その求め方を読みとって、図を使って説明することができる。	・棒の本数を求める式を読みとって、その求め方を、図を使って説明する。		○棒の本数を求める式から、その求め方を読みとり、図を使って説明することができる。	○棒の本数を求める式から、その求め方を読みとって説明しようとしている。
		1 1次式の計算 (教科書 p. 76～81)	10	項と係数の意味を理解し、文字の部分が同じ項を1つの項にまとめることができる。	・項と係数の意味を知る。 ・文字の部分が同じ項を1つの項にまとめて簡単にする。 [用語・記号] 項、係数	○項と係数の意味を理解している。 ○文字の部分が同じ項を1つの項にまとめることができる。	○具体的な場面と関連づけて、1次式の加法の計算方法を考え、説明することができる。	○1次式の計算方法を考えようとしている。
			11	1次式の加法や減法の計算ができる。	・1次式の加法や減法の計算をする。	○1次式の加法や減法の計算方法を理解し、計算ができる。	○具体的な場面と関連づけて、1次式の減法の計算方法を考え、説明することができる。	
			12	1次式と数の乗法の計算ができる。	・1次式と数の乗法の計算をする。	○1次式と数の乗法の計算方法を理解し、計算ができる。		
			13	1次式と数の除法の計算ができる。また、分配法則を使って、1次式のいろいろな計算ができる。	・1次式と数の除法を乗法になおして計算する。 ・分配法則を使って、1次式のいろいろな計算をする。	○1次式と数の除法の計算方法を理解し、計算ができる。 ○分配法則を使って、1次式のいろいろな計算ができる。		
		基本の問題 (教科書 p. 82)	14					
10	3 文字式の利用	棒の本数を求めてみよう (教科書 p. 83～84)	15	文字を用いた式を活用して、立方体をつなげた棒の本数を求める式を考え、その求め方を説明することができる。	・立方体をつなげた棒の本数を求める式を考え、その求め方を説明する。 ・複数の考え方をもとにした式を比べて、どのようなことがいえるかを話し合う。		○立方体をつなげた棒の本数の求め方を、正方形をつなげた棒の本数の求め方と関連づけて考え、式や図を使って表現することができる。	○文字を用いた式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
		1 数の表し方 (教科書 p. 85)	16	いろいろな整数を文字を用いた式で表したり、式が表す数を読みとったりすることができる。	・いろいろな整数を、文字を用いた式で表したり、式が表す数を読みとったりする。	○いろいろな整数を文字を用いた式で表したり、式が表す数を読みとったりすることができる。		
		2 数量の間の関係の表し方 (教科書 p. 86～87)	17	等式、不等式の意味を理解し、数量の間の関係を等式や不等式で表したり、等式や不等式が表す数量の関係を読みとったりすることができる。	・等式、不等式の意味を知る。 ・数量の間の関係を等式や不等式で表す。 ・等式や不等式が、どんな数量の関係を表しているかを考える。 [用語・記号] 等式、不等式、左辺、右辺、≧、≦	○等式と不等式の意味を理解している。 ○数量の間の関係を等式や不等式で表すことができる。 ○等式や不等式が表す数量の間の関係を読みとることができる。		○等式と不等式の必要性和意味を考えようとしている。
	章の問題A (教科書 p. 88)		18					
	評価基準					定期考査、単元テスト、ドリル、授業課題	定期考査、単元テスト、小テスト、授業課題	提出物(問題集、ドリル、レポート、振り返りシート等)の取組状況

3 章 未知の数の求め方を考えよう【方程式】（14 時間）

毎時の評価規準例

実施 予 定 月	節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 1	1 方程式とその解き方	りんごの個数を求めてみよう （教科書 p. 91～93）	1	数量を求める問題を、既習の内容を活用して解決することを通して、方程式の必要性を理解する。	・収穫したりんごの個数が何個あるかを、式や図を使って求める。		○求めたい数量を、既習の内容を活用して考え、その求め方を式や図を使って説明することができる。	○求めたい数量がある問題を、既習の内容を活用して考えようとしている。
		1 方程式とその解 （教科書 p. 94～97）	2	方程式とその解の意味を理解し、文字に値を代入して方程式の解を求めることができる。	・方程式とその解の意味を知る。 ・方程式の中の文字に値を代入して、解であるかどうかを確かめる。 [用語・記号] 方程式、（方程式の）解	○方程式とその解の意味を理解している。		○方程式の必要性和意味を考えようとしている。
			3	等式の性質を使って、方程式を解くことができる。	・方程式を解く方法を、てんびんの操作と結びつけて考える。 ・等式の性質を使って方程式を解く。 [用語・記号] 方程式を解く、等式の性質	○等式の性質を理解し、等式の性質を使って方程式を解くことができる。	○方程式を解く方法を、てんびんの操作と結びつけて考え、説明することができる。	
		2 方程式の解き方 （教科書 p. 98～99）	4	移項の意味を理解し、移項の考えを使って方程式を解くことができる。	・等式の性質を使って方程式を解く過程を振り返って、移項の考えを見いだす。 ・移項の考えを使って方程式を解く。 ・移項の考えを使って方程式を解く手順を確認する。 [用語・記号] 移項	○移項の意味を理解し、移項の考えを使って方程式を解くことができる。 ○移項の考えを使って方程式を解く手順を理解している。	○等式の性質を使って方程式を解く過程を振り返って、移項の考えを見だし、説明することができる。	○方程式を効率的に解く方法を考えようとしている。
		3 いろいろな方程式 （教科書 p. 100～102）	5	かっこをふくむ方程式や、係数に小数をふくむ方程式を解くことができる。	・かっこをふくむ方程式を解く。 ・係数に小数をふくむ方程式を解く。	○かっこをふくむ方程式の解き方を理解し、その方程式を解くことができる。 ○係数に小数をふくむ方程式の解き方を理解し、その方程式を解くことができる。		
			6	係数に分数をふくむ方程式を解くことができる。また、1 次方程式を解く手順を理解する。	・係数に分数をふくむ方程式を解く。 ・1 次方程式を解く手順を確認する。 [用語・記号] 分母をはらう、1 次方程式	○係数に分数をふくむ方程式の解き方を理解し、その方程式を解くことができる。 ○1 次方程式を解く手順を理解している。		
		基本の問題 （教科書 p. 102）	7					
	2 1 次方程式	プランターの間隔は何 cm？ （教科書 p. 103～104）	8	具体的な問題を、方程式を利用して解決するときの考え方や手順を理解する。	・プランターの間隔を、逆算の考えや方程式を使って求め、それらの考えを比較する。 ・方程式を利用して問題を解決するときの手順を確認する。	○具体的な問題の中の数量やその関係に着目し、1 次方程式をつくること ができる。 ○方程式を利用して問題を解決するときの手順を理解している。	○1 次方程式を利用して、具体的な問題を解決することができる。	○方程式を具体的な問題の解決に利用しようとしている。 ○方程式を利用した問題解決の過程を振り返ってその手

1 2	1 1次方程式の利用 (教科書 p. 105～108)	9	個数と代金に関する問題を、方程式を利用して解決することができる。	・個数と代金に関する問題を、方程式を利用して解決する。			順を検討しようとしている。
		10	速さ・時間・道のりに関する問題を、方程式を利用して解決することができる。また、求めた解が問題に適しているかどうかを考え、説明することができる。	・速さ・時間・道のりに関する問題を、方程式を利用して解決する。 ・速さに関する問題で、求めた解が問題に適しているかどうかを考える。 ・方程式を利用して問題を解決するときの手順をまとめる。		○1次方程式を利用して、具体的な問題を解決することができる。 ○求めた解が問題に適しているかどうかを、問題の場面に戻って考え、説明することができる。	
		11	過不足に関する問題を、方程式を利用して解決することができる。	・過不足に関する問題を、方程式を利用して解決する。		○1次方程式を利用して、具体的な問題を解決することができる。	
	2 比例式の利用 (教科書 p. 109～111)	12	比例式の性質を理解し、その性質を利用して文字の値を求めたり、具体的な問題を解決したりすることができる。	・比の値が等しいことを表す式を変形して、比例式の性質を見いだす。 ・比例式の性質を利用して、文字の値を求めたり、具体的な問題を解決したりする。 [用語・記号] 比例式	○比例式の意味とその性質を理解し、比例式の性質を利用して文字の値を求めることができる。	○比例式の性質を利用して方程式をつくり、具体的な問題を解決することができる。 ○比例式の性質を見いだし、その性質を説明することができる。	○比例式を具体的な問題の解決に利用しようとしている。
	基本の問題 (教科書 p. 111)	13					
	章の問題A (教科書 p. 114)	14					
	評価基準				定期考査、単元テスト、ドリル、授業課題	定期考査、単元テスト、小テスト、授業課題	提出物(問題集、ドリル、レポート、振り返りシート等)の取組状況

4 章 数量の関係を調べて問題を解決しよう [比例と反比例] (22 時間)

毎時の評価規準例

実施 予 定 月	節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	1 関数と比例・反比例	満水になるまでの時間を予想しよう (教科書 p. 117～119)	1	身のまわりの問題を、関数の考えを利用して解決することができる。	・水槽が満水になるまでの時間を予想するために、水槽の形や水槽に入れる水の量の変化など、どんなことがわかればよいかを考える。		○身のまわりの問題を、関数の考えを利用して解決することができる。	○関数の考えを生活や学習に生かそうとしている。 ○関数関係の意味や比例、反比例について考えようとしている。
		1 関数 (教科書 p. 120～123)	2	関数の意味及び変域の意味と表し方を理解し、変域を不等号を使って表すことができる。 また、2 つの数量の間に関数の関係があるかどうかを判断することができる。	・関数の意味を知る。 ・変域の意味と表し方を知る。 ・変域を不等号を使って表す。 ・2 つの数量の間に関数の関係があるかどうかを調べる。 ・関数の関係を「～は…の関数である」といういい方で表す。 [用語・記号] 変数、 y は x の関数である、変域	○関数の意味を理解している。 ○変域の意味と表し方を理解し、変域を不等号を使って表すことができる。 ○2 つの数量の間に関数の関係があるかどうかを判断し、表現することができる。	○身のまわりの問題を、関数の考えを利用して解決することができる。	
			2 比例と反比例 (教科書 p. 124～125)	4	比例の意味を理解し、比例の関係を式に表すことができる。また、反比例の意味を理解し、反比例の関係を式に表すことができる。	・比例の意味を知る。 ・ y を x の式で表して、 y が x に比例するかどうかを調べる。 ・反比例の意味を知る。 ・ y を x の式で表して、 y が x に反比例するかどうかを調べる。 [用語・記号] y は x に比例する、比例定数（比例）、 y は x に反比例する、比例定数（反比例）	○比例の意味を理解し、比例の関係を式に表すことができる。 ○反比例の意味を理解し、反比例の関係を式に表すことができる。	
		基本の問題 (教科書 p. 126)	5					
1	2 比例の性質と調べ方	負の数の世界へひろげてみよう (教科書 p. 127)	6	x の変域や比例定数を負の数にひろげて、比例の性質が成り立つことを理解する。	・算数で学習した比例の性質やグラフの特徴を振り返る。 ・ x の変域や比例定数のとりうる範囲を負の数にひろげて、比例の性質が成り立つかどうかを調べる。	○ x の変域や比例定数を負の数にひろげて、比例の性質が成り立つことを理解している。		○数の範囲を負の数までひろげると比例の性質やグラフの特徴がどうなるかやその調べ方を考えようとしている。
		1 比例の表と式 (教科書 p. 128～129)	7	y が x に比例するとき、1 組の x 、 y の値から、比例の式を求めることができる。	・ x の変域や比例定数が負の数の場合をふくめた比例の式を考える。	○ y が x に比例するとき、1 組の x 、 y の値から、 y を x の式で表すことができる。		

2		2 比例のグラフ (教科書 p. 130～135)	8	座標の意味や点の位置の表し方を理解し、点の座標を求めたり、座標を平面上の点で表したりすることができる。	・変域を負の数にひろげたときの比例のグラフをかくために、負の数も範囲に入れた点の位置の表し方を考える。 ・点の座標を求めたり、座標を平面上の点で表したりする。 [用語・記号] x 軸、 y 軸、座標軸、原点、 x 座標、 y 座標、座標	○座標の意味や点の位置の表し方を理解している。 ○点の座標を求めたり、座標を平面上の点で表したりすることができる。		
			9	比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、原点を通る 1 つの直線であることを理解する。また、比例のグラフの特徴を理解する。	・変域を負の数にひろげたときの比例のグラフがどのようなかを、点を細かくとって調べる。 ・比例定数が負の数の場合の比例のグラフをかくいて、正の数の場合との共通点やちがいを調べる。	○比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、原点を通る 1 つの直線であることを理解している。 ○比例のグラフの特徴を理解している。	○比例のグラフの特徴を見だし、説明することができる。	○変域や比例定数のとりうる範囲を負の数にひろげて、比例のグラフの特徴を捉えようとしている。
			10	比例について、 x の値が増加するときの y の値の変化の特徴を理解する。また、比例のグラフの特徴をもとに、グラフをかくことができる。	・比例について、 x の値が増加するときの y の値の変化の様子を、比例定数が正の数の場合と負の数の場合で、表やグラフを用いて調べる。 ・比例のグラフの特徴をもとに、グラフをかく。 ・比例の性質を調べる方法を振り返る。	○比例について、 x の値が増加するときの y の値の変化の特徴を理解している。 ○比例のグラフの特徴をもとに、グラフをかくことができる。	○比例について、 x の値が増加するときの y の値の変化の特徴を、表やグラフを用いて捉え、説明することができる。	○比例の値の変化の特徴を、表やグラフを用いて捉えようとしている。
			3 比例の表、式、グラフ (教科書 p. 136～137)	11	比例の表、式、グラフを関連づけて理解する。また、比例のグラフから式を求めることができる。	・比例の表やグラフから式を求める方法を考える。 ・比例の表、式、グラフのどこに比例定数があるかわれるかをまとめる。 ・比例のグラフから式を求める。	○比例のグラフから式を求めることができる。	○比例の表やグラフから式を求める方法を考え、説明することができる。
		基本の問題 (教科書 p. 138)	12					
2	3 反比例の性質と調べ方	負の数の世界へひろげてみよう (教科書 p. 139)	13	x の変域や比例定数を負の数にひろげても、反比例の性質が成り立つことを理解する。	・算数で学習した反比例の性質やグラフの特徴を振り返る。 ・ x の変域や比例定数のとりうる範囲を負の数にひろげても、反比例の性質が成り立つかどうかを調べる。	○ x の変域や比例定数のとりうる範囲を負の数にひろげても、反比例の性質が成り立つことを理解している。		○数の範囲を負の数までひろげると反比例の性質やグラフの特徴がどうなるかやその調べ方を考えようとしている。
		1 反比例の表と式 (教科書 p. 140～141)		14	y が x に反比例するとき、1 組の x 、 y の値から、反比例の式を求めることができる。	・ x の変域や比例定数が負の数の場合をふくめた反比例の式を考える。	○ y が x に反比例するとき、1 組の x 、 y の値から、反比例の式を求めることができる。	
3		2 反比例のグラフ (教科書 p. 142～145)	15	反比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、なめらかな 2 つの曲線であることを理解する。	・変域を負の数にひろげたときの反比例のグラフがどのようなかを、点を細かくとって調べる。	○反比例のグラフは、式をみたす点の集合であり、なめらかな 2 つの曲線であることを理解している。	○反比例のグラフの特徴を見いだすことができる。	○変域や比例定数のとりうる範囲を負の数にひろげて、反比例のグラフの特徴を捉えようとしている。
			16	反比例のグラフの特徴を理解する。また、反比例のグラフをかくことができる。	・比例定数が負の数の場合の反比例のグラフをかくいて、正の数の場合との共通点やちがいを調べる。また、 x の値を大きくしたり 0 に近づけたりするとグラフはどうなるかを調べる。 ・反比例のグラフをかく。	○反比例のグラフの特徴を理解している。 ○反比例のグラフをかくことができる。		

					【用語・記号】 双曲線			
			17	反比例の値の変化の特徴を理解する。	・ 反比例について、 x の値が増加したときの y の値の変化の様子を、比例定数が正の数の場合と負の数の場合で、表やグラフを用いて調べる。 ・ 反比例の性質を調べる方法を振り返る。	○反比例の値の変化の特徴を理解している。	○反比例について、 x の値が増加するときの y の値の変化の特徴を、表やグラフを用いて捉え、説明することができる。	○反比例の値の変化の特徴を、表やグラフを用いて捉えようとしている。
		3 反比例の表、式、グラフ (教科書 p. 146～147)	18	反比例の表、式、グラフを関連づけて理解する。また、反比例のグラフから式を求めることができる。	・ 反比例の表やグラフから式を求める方法を考える。 ・ 反比例の表、式、グラフのどこに比例定数があらわれるかをまとめる。 ・ 反比例のグラフから式を求める。	○反比例のグラフから式を求めることができる。	○反比例の表やグラフから式を求める方法を考え、説明することができる。	○反比例について学んだことを生かして、反比例の表、式、グラフを関連づけて捉えようとしている。
		基本の問題 (教科書 p. 148)						
3	4 比例と反比例の利用	待ち時間を予想するためには？ (教科書 p. 149～150)	19	身のまわりの問題で、関数の関係にある数量を見だし、その関係を比例とみなして解決することができる。	・ 行列の待ち時間を予想するために、どんなことがわかればよいかを考える。 ・ 1 人がポップコーンを買うのにかかる時間を一定と考えて、並んでいる人数から待ち時間を予想する。		○具体的な事象で関数の関係にある数量を見だし、その関係を比例とみなして表現し、問題を解決することができる。	○比例、反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○比例、反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
		1 比例と反比例の利用 (教科書 p. 151～153)	20	身のまわりの問題を比例や反比例を利用して解決することができる。また、 $A=BC$ で表される関係において、それらの数量の間の関係を考えることができる。	・ 身のまわりの問題を、比例や反比例を用いて解決する。 ・ $A=BC$ の式で、 A 、 B 、 C のうち、1 つの変数の値を決めたとき、他の 2 つの変数の関係がどうなるかを調べる。		○具体的な事象の中の数量の関係が比例や反比例であることを見だし、問題を解決することができる。 ○ $A=BC$ で表される関係において、それらの数量の間の関係を考察することができる。	○2 つの数量の関係を、表や式、グラフに表すことのよさに気づいている。
			21	身のまわりの問題を、比例のグラフを利用して解決することができる。	・ 身のまわりの問題を、比例のグラフを利用して解決する。 ・ 比例のグラフから、具体的な事象を読みとる。	○比例のグラフから、具体的な事象を読みとることができる。	○具体的な事象の中の数量の関係を比例とみなして、そのグラフを利用して問題を解決することができる。	
		章の問題 A (教科書 p. 154)	22					
評価基準						定期考査、単元テスト、ドリル、授業課題	定期考査、単元テスト、小テスト、授業課題	提出物（問題集、ドリル、レポート、振り返りシート等）の取組状況

5 章 平面図形の見方をひろげよう [平面図形] (17 時間)

毎時の評価規準例

実施 予 定 月	節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	1 図形の移動	しきつめ模様をデザインしよう (教科書 p. 157～159)	1	しきつめ模様の特徴を図形の移動の見方で捉えたり、図形を移動させてしきつめ模様をつくったりすることができる。	・日本の伝統模様を合同な図形でしきつめられているとみたり、1つの図形を移動させて正六角形の模様をつくったりする。		○しきつめ模様の特徴を図形の移動の見方で捉えたり、図形を移動させてしきつめ模様をつくったりすることができる。	○2つの合同な図形の関係を移動の見方で捉えようとしている。
		1 図形の移動 (教科書 p. 160～167)	2	平行移動の意味とその性質を理解する。	・正六角形の模様の中の2つの図形の関係を移動の見方で観察し、平行移動について知る。 ・平行移動の性質をもとにして、ある図形を平行移動させた図形をかく。 [用語・記号] 直線AB、線分AB、半直線AB、△ABC、平行移動、//	○平行移動の意味とその性質を理解し、ある図形を平行移動させた図形をかくことができる。 ○平面図形に関する用語や記号の意味と使い方を理解している。		
			3	回転移動の意味とその性質を理解する。	・正六角形の模様の中の2つの図形の関係を移動の見方で観察し、回転移動について知る。 ・回転移動の性質をもとにして、ある図形を回転移動させた図形をかく。 ・点対称な図形を回転移動の見方で捉える。 [用語・記号] 回転移動、回転の中心、∠AOB	○回転移動の意味とその性質を理解し、ある図形を回転移動させた図形をかくことができる。 ○平面図形に関する用語や記号の意味と使い方を理解している。		
			4	対称移動の意味とその性質を理解する。	・正六角形の模様の中の2つの図形の関係を移動の見方で観察し、対称移動について知る。 ・対称移動の性質をもとにして、ある図形を対称移動させた図形をかく。 ・線対称な図形を対称移動の見方で捉える。 [用語・記号] 対称移動、対称の軸、垂線、⊥、中点、垂直二等分線	○対称移動の意味とその性質を理解し、ある図形を対称移動させた図形をかくことができる。 ○平面図形に関する用語や記号の意味と使い方を理解している。		
			5	2つの合同な図形の関係を移動の見方で捉え、説明することができる。	・正六角形の模様の中の2つの図形の関係を移動の見方で観察し、その移動の方法を平行移動、回転移動、対称移動を用いて説明する。 ・図形の合同の意味を確認する。		○2つの合同な図形の関係を移動の見方で捉え、説明することができる。	
		基本の問題 (教科書 p. 168)	6					
	5	2 基本の作図	正六角形を正確にかくには？ (教科書 p. 169)	7	作図における定規とコンパスの役割と使い方を理解し、簡単な作図ができる。	・定規とコンパスを使って正六角形をかき、それがかけるわけを説明する。 ・作図における定規とコンパスの役割と使い方を知り、簡単な作図をする。 [用語・記号] 弧AB、弧の記号、弦	○作図における定規とコンパスの役割と使い方を理解し、簡単な作図ができる。 ○円に関する用語や記号の意味と使い方を理解している。	○正六角形がかかる理由を、コンパスの役割に着目して考え、説明することができる。
1 作図のしかた (教科書 p. 170)								

5	2 基本の作図 (教科書 p.171～178)	8	基本的な作図の方法を考えるために、交わる 2 つの円の性質を理解する。	・基本的な作図の方法を考えるために、交わる 2 つの円の性質について調べる。	○交わる 2 つの円の性質を理解している。	○交わる 2 つの円の性質を見だし、説明することができる。	○基本的な作図の方法を、線対称な図形の性質をもとにして考えようとしている。	
		9	垂線を作図する方法を理解し、作図することができる。	・垂線を作図する方法を、線対称な図形の性質をもとにして考える。 ・点と直線との距離、平行な 2 直線の距離の意味を知る。	○垂線を作図する方法を理解し、作図することができる。 ○点と直線との距離、平行な 2 直線の距離の意味を理解している。			
		10	線分の垂直二等分線を作図する方法を理解し、作図することができる。	・線分の垂直二等分線を作図する方法を、線対称な図形の性質をもとにして考える。 ・2 点から等距離にある点は、線分の垂直二等分線上にあることを知る。	○線分の垂直二等分線を作図する方法を理解し、作図することができる。 ○2 点から等距離にある点は、線分の垂直二等分線上にあることを理解している。			
		11	角の二等分線を作図する方法を理解し、作図することができる。また、直線上の点を通り、その直線に垂直な直線を作図する方法を考え、説明することができる。	・角の二等分線を作図する方法を、線対称な図形の性質をもとにして考える。 ・角の 2 辺までの距離が等しい点は、その角の二等分線上にあることを知る。 ・直線上の点を通り、その直線に垂直な直線を作図する方法を考える。 [用語・記号] (角の) 二等分線	○角の二等分線を作図する方法を理解し、作図することができる。 ○角の 2 辺までの距離が等しい点は、その角の二等分線上にあることを理解している。	○直線上の点を通り、その直線に垂直な直線を作図する方法を考え、説明することができる。		
6	3 いろいろな作図 (教科書 p.179～180)	12	基本的な作図を利用して、円の接線やいろいろな条件をみたす図形を作図することができる。	・円の接線、接点の意味と円の接線の性質を知る。 ・基本的な作図を利用して、円の接線やいろいろな条件をみたす図形を作図する。 [用語・記号] 接する、接線、接点	○円の接線、接点の意味と円の接線の性質を理解している。	○基本的な作図を利用して、円の接線やいろいろな条件をみたす図形を作図する方法を考え、説明することができる。	○平面図形の性質を捉えることのよさに気づき、基本的な作図を生活や学習に生かそうとしている。	
	基本の問題 (教科書 p.180)	13						
	いろいろな角を作図してみよう (教科書 p.181～182)	14	基本的な作図を利用して 75° の角を作図する方法を考え、式や図を使って説明することができる。	・基本的な作図を利用して 75° の角を作図する方法を考え、式や図を使って説明する。 ・複数の作図の方法を比べて、同じところやちがうところを話し合う。		○基本的な作図を利用して 75° の角を作図する方法を考え、説明することができる。	○作図について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○基本的な作図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。	
6	3 おうぎ形	ケーキを 3 等分するには？ (教科書 p.183～184)	15	身のまわりにあるものを円とみなして、その円を等分してできるおうぎ形に着目し、弧の長さや面積が中心角に比例することを理解する。	・ケーキを円とみなして、その円を 3 等分する方法を考え、その方法で円を 3 等分できる理由を説明する。 ・おうぎ形の中心角が 2 倍、3 倍になると、弧の長さや面積がそれぞれ何倍になるかを調べる。 [用語・記号] おうぎ形、中心角	○おうぎ形と中心角の意味を理解している。 ○おうぎ形の弧の長さや面積が中心角に比例することを理解している。	○円が 3 等分できる理由を説明することができる。	○おうぎ形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
		1 おうぎ形 (教科書 p.184～185)	16	おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。	・おうぎ形の弧の長さや面積の求め方を、中心角に比例することをもとにして考える。 ・おうぎ形の弧の長さや面積を求める。	○おうぎ形の弧の長さや面積が中心角に比例することをもとにして、おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。		
	章の問題 A (教科書 p.188)		17					

	評価基準				定期考査、単元テスト、ドリル、 授業課題	定期考査、単元テスト、小テスト、 授業課題	提出物（問題集、ドリル、レポ ート、振り返りシート等）の 取組状況
--	------	--	--	--	-------------------------	--------------------------	---

6 章 立体の見方をひろげよう【空間図形】（18 時間）

毎時の評価規準例

実施 予 定 月	節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
7	1 いろいろな立体	身のまわりから立体を見つけよう (教科書 p. 191～193)	1	身のまわりにあるものから立体を見だし、それらの立体をいろいろな見方で分類することができる。	・身のまわりにあるものから立体を見だし、それらの立体をいろいろな見方で分類する。		○立体をいろいろな見方で分類し、立体のどこに着目して分類したかを説明することができる。	○空間図形の性質や関係を捉えるよさに気づいている。
		1 いろいろな立体 (教科書 p. 194～196)	2	多面体の意味を理解する。また、角錐や円錐の意味とそれらの特徴を理解する。	・多面体の意味を知る。 ・角錐、円錐の意味を知る。 ・角柱と角錐、円柱と円錐、角錐と円錐の共通点やちがいを考える。 [用語・記号] 多面体、角錐、円錐	○多面体の意味を理解している。 ○角錐、円錐の意味とそれらの特徴を理解している。	○角柱と角錐、円柱と円錐、角錐と円錐の共通点やちがいを見だし、説明することができる。	
			3	正多面体の意味とその特徴を理解する。	・巻末の紙を使って正多面体の模型を作り、それらの共通点やちがいを考える。 ・正多面体の意味を知る。 ・正多面体の面の数、辺の数、頂点の数などをもとにして、正多面体の性質を調べる。 [用語・記号] 正多面体	○正多面体の意味を理解している。 ○正多面体の辺の数や頂点の数を求めることができる。	○正多面体の共通点やちがいを見だし、説明することができる。 ○正多面体の面の数、辺の数、頂点の数などをもとにして、正多面体の性質を見だし、説明することができる。	
9	2 立体の見方と	どこから撮ったのかな？ (教科書 p. 197)	4	空間内にある平面が1つに決まる条件を理解する。	・ピサの斜塔を鉛筆に見立てて、地図の上に斜めに立てた鉛筆を観察し、ピサの斜塔の写真が撮られた位置を考える。 ・空間内にある直線と平面について、1 つの直線上にない3点によって、平面が1つに決まるかどうかを考える。	○空間内にある平面が1つに決まる条件を理解している。	○空間内にある平面が1つに決まる条件を、具体物を用いて考え、説明することができる。	
	1 直線や平面の位置関係	直線や平面の位置関係 (教科書 p. 198～203)	5	空間内にある平面と平面、直線と平面、直線と直線の位置関係を理解する。	・空間内にある平面と平面の位置関係を分類し、交線の意味を知る。 ・空間内にある直線と平面の位置関係を分類する。 ・空間内にある直線と直線の位置関係を分類し、ねじれの位置にあることの意味を知る。 [用語・記号] 交線、ねじれの位置にある	○空間内にある平面と平面の位置関係や交線の意味を理解している。 ○空間内にある直線と平面の位置関係を理解している。 ○空間内にある直線と直線の位置関係やねじれの位置にあることの意味を理解している。	○平行な2つの平面に1つの平面が交わってできる交線の関係が、平行であると捉えることができる。	
			6	空間内にある直線と平面の垂直、平面と平面のつくる角を理解する。	・空間内にある直線と平面の垂直について考える。 ・空間内にある平面と平面のつくる角について考える。 ・点と平面との距離、平面と平面との距離の意味を知る。	○空間内にある直線と平面の垂直を理解している。 ○空間内にある平面と平面のつくる角を理解している。 ○点と平面との距離、平面と平面との距離の意味を理解している。	○空間内にある直線と平面が垂直であることを確かめる方法を、説明することができる。 ○空間内にある平面と平面のつくる角の決め方を、説明することができる。	

10	(教科書 p. 214～216)	14	角錐や円錐の体積の求め方を理解し、それらを求めることができる。	・巻末の紙で作った模型を組み合わせたリ、水を使った実験を行ったりして、角錐や円錐の体積を、底面積が等しく、高さが等しい角柱や円柱の体積と比べ、それらの求め方を考える。 ・角錐や円錐の体積を求める。	○角錐や円錐の体積の求め方を理解し、それらを求めることができる。	○角錐や円錐の体積を、底面積が等しく、高さが等しい角柱や円柱の体積と比べ、その求め方を考え、説明することができる。 ○2 つのテントのうち、どちらの内部の空間が広いかを考察し、説明することができる。
	2 表面積 (教科書 p. 217～218)	15	角柱や円柱、円錐の表面積の求め方を理解し、それらを求めることができる。	・階段の形をした立体の表面積の求め方を考える。 ・円柱の表面積の求め方を、展開図をもとにして考える。 ・角柱や円柱の表面積を求める。 ・円錐の表面積の求め方を、展開図をもとにして考える。 ・円錐の表面積を求める。 [用語・記号] 表面積、底面積、側面積	○角柱や円柱、円錐の表面積の求め方を理解し、それらを求めることができる。	○角柱や円柱、円錐の表面積の求め方を、展開図をもとにして考え、説明することができる。 ○2 つのテントのうち、どちらの表面積が大きいかを考察し、説明することができる。
	3 球の体積と表面積 (教科書 p. 219～221)	16	球の体積や表面積の求め方を理解し、それらを求めることができる。	・実験を行うなどして、球の体積や表面積を、その球がちょうど入る円柱の体積や表面積と比べ、その求め方を考える。 ・球の体積と表面積を求める。	○球の体積や表面積の求め方を理解し、それらを求めることができる。	○球の体積や表面積を、その球がちょうど入る円柱の体積や表面積と比べ、その求め方を考え、説明することができる。
	基本の問題 (教科書 p. 221)	17				
	章の問題 A (教科書 p. 222)	18				
評価基準				定期考查、単元テスト、ドリル、授業課題	定期考查、単元テスト、小テスト、授業課題	提出物 (問題集、ドリル、レポート、振り返りシート等) の取組状況

7章 データを活用して判断しよう【データの分析と活用】（11 時間）

毎時の評価規準例

	節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 1	1 データの整理と分析	現在のチームを分析しよう (教科書 p. 225～227)	1	既習のデータの整理や分析の方法を、問題解決に生かそうとしている。	・現在のチームの 1500m 走の記録が、優勝時のチームの記録と比べて遅くなったかどうかを調べる方法について話し合う。			○既習のデータの整理や分析の方法を、問題解決に生かそうとしている。
		1 データの分布の見方 (教科書 p. 228～233)	2	データを度数分布表やヒストグラムに表し、分布の特徴を読みとり、説明することができる。	・現在のチームと優勝時のチームの 1500m 走の記録を度数分布表やヒストグラム、度数折れ線に表し、それぞれの分布の特徴を読みとる。 ・階級の幅の異なる複数のヒストグラムを比較し、検討する。 [用語・記号] 累積度数、ヒストグラム、度数折れ線	○ヒストグラムや度数折れ線の必要性和意味を理解し、それらを用いてデータを整理することができる。 ○累積度数の必要性和意味を理解し、求めることができる。	○度数分布表やヒストグラムから、データの分布の特徴を読みとり、説明することができる。	○ヒストグラムや相対度数の必要性や意味を考えようとしている。
			3	相対度数の必要性和意味を理解し、2 つのデータを相対度数の折れ線に表して、分布を比較し、説明することができる。	・現在のチームと優勝時のチームの 1500m 走の記録の相対度数を求め、折れ線に表して、2 つの分布を比較する。 ・現在のチームと優勝時のチームで、1500m 走を 6 分未満で走った生徒の割合を、累積相対度数を用いて比較する。 [用語・記号] 相対度数、累積相対度数	○相対度数の必要性和意味を理解し、求めることができる。 ○累積相対度数の必要性和意味を理解し、求めることができる。	○相対度数の折れ線から、2 つのデータの分布を比較し、説明することができる。	
		2 データの分布の特徴の表し方 (教科書 p. 234～235)	4	代表値や範囲を用いてデータの分布の傾向を読みとり、説明することができる。	・現在のチームと優勝時のチームの 1500m 走の記録の代表値や範囲を求め、それらを用いて、現在のチームの記録が優勝時のチームと比べて遅くなったといえるかどうかを説明する。 [用語・記号] 平均値、中央値（メジアン）、最頻値（モード）、範囲（レンジ）	○代表値や範囲の必要性和意味を理解し、それらを求めることができる。	○代表値や範囲を用いてデータの分布の傾向を読みとり、説明することができる。	○代表値や範囲の必要性や意味を考えようとしている。
		基本の問題 (教科書 p. 236)	5					
1 2	2 データの活用	運動時間は増えたかな？ (教科書 p. 237～238)	6	目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読みとり、批判的に考察し判断することができる。	・運動時間のデータを分析し、データの分布の傾向を適切に読みとれるようにヒストグラムに表し、その傾向を説明する。		○度数折れ線やヒストグラムから、データの分布の傾向を読みとり、批判的に考察し判断することができる。	○データを分析して問題解決する過程を生活や学習に生かそうとしている。 ○データを分析した問題解決の過程を振り返って検討したり、多面的に捉え考えようとしたりしている。

		1 データの活用 (教科書 p. 239～240)	7	データを使った問題解決の過程を振り返り、批判的に考察し判断することができる。	・データを正しく読みとることができるかを、批判的に考察し判断する。		○データを使った問題解決の過程を振り返り、批判的に考察し判断することができる。	
1 2	3 ことからの起こりやすさ	どちらを選ぶ？ (教科書 p. 241)	8	不確定な事象の起こりやすさを、その事象の起こる割合や試行の回数に着目して考え、説明することができる。	・ホエールウォッチングで、A 社と B 社のどちらのほうがクジラと出会いやすいかを、出航回数と出会った回数のデータを用いて考え、説明する。		○不確定な事象の起こりやすさを、その事象の起こる割合や試行の回数に着目して考え、説明することができる。	○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性や意味を考えようとしている。
		1 起こりやすさの表し方 (教科書 p. 242～245)	9	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解する。	・ペットボトルキャップを投げる実験を多数回行った結果を表やグラフに整理し、表向きになる相対度数がどのように変化するかを調べる。 [用語・記号] 確率	○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解している。		
			10	多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読みとり、説明することができる。	・新入生向けに各サイズの上ばきを何足仕入れておけばよいかを、過去 3 年分のデータをもとに考え、説明する。		○多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読みとり、説明することができる。	○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○多数回の観察や多数回の試行によって得られる確率のよさに気づいている。
	章の問題 A (教科書 p. 246)		11					
	評価基準					定期考査、単元テスト、ドリル、授業課題	定期考査、単元テスト、小テスト、授業課題	提出物（問題集、ドリル、レポート、振り返りシート等）の取組状況

令和8年度

1 学年 理科 年間指導計画・評価計画

担当〔中西春香・吉川由梨亜〕

教 科 の 目 標	指 導 ・ 評 価 の 重 点 お よ び 工 夫 点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
自然の事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。 （1）自然の事物・現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 （2）観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 （3）自然の事物・現象に進んで関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。	・教科書の太字や重要語句の整理を行い、反復することによって知識の定着を図る。 ・観察や実験を行うことによって技能の定着を目指す。 ・毎回の授業に見通しをもたせることで、学習内容を整理しやすく、特に重要な事項を意識しやすくする。 ・自分のつまずきに気付き補強することで基礎学力の定着を図る。	・毎回の授業を通して、法則や原理、現象の原因や理由（なぜそのようなことが起こるか）を突き詰めていくなかで思考・判断力を身に付ける。 ・グループ学習や学級内において科学の原理や法則を説明することで表現力を培う。 ・実験観察やグループ討議等の学び合いを通して、思考の幅を広げる。 ・レポート等に取り組む中で、表現力が高まるよう課題設定を行う。	・観察や実験の活動を行い、興味・関心をもたせると共に、学習意欲の向上に努める。 ・科学と日常や科学とスポーツ、科学の未来など、科学を様々なものと関連付けることによって、学習意欲の向上に結びつける。 ・生徒用タブレットやデジタル教科書等の ICT 機器を積極的に活用し、生徒が興味を抱くようなトピックに触れる機会を増やすことで学習意欲の向上を目指す。	・定期考査だけでなくポートフォリオや KWL チャート等の思考ツールを実施することによって、個々の生徒が学習を振り返る場面を設ける。 ・生徒が自らの学習過程を振り返り、課題をもって学習している評価を行う。 ・生徒用タブレットなどの ICT 機器も活用しながら、課題のやり取りを行う。

平行型 A

◎単元（１～数十時間の学習内容のまとめ）は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICT との関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学びに向かう態度
4 ～ 10	単元2 身のまわりの物質	デジタル教科書の活用 生徒用のタブレットの活用	25	・身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、身のまわりの物質とその性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解していると共に、科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・物質のすがたについて，問題を見出し見通しをもって観察，実験などを行い，物質の性質や状態変化における規則性を見い出して表現しているなど，科学的に探究している。	・物質のすがたに関する事物・現象に進んで関わり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
	1 章 身のまわりの物質とその性質					
	2 章 気体の性質			・身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら，気体の発生とその性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解していると共に，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・物質のすがたについて，問題を見出し見通しをもって観察，実験などを行い，物質の性質や状態変化における規則性を見い出して表現しているなど，科学的に探究している。	・物質のすがたに関する事物・現象に進んで関わり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
	3 章 水溶液の性質			・身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら，水溶液についての基本的な概念や原理・法則などを理解していると共に，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・水溶液について，問題を見出し見通しをもって観察，実験などを行い，物質の性質や状態変化における規則性を見い出して表現しているなど，科学的に探究している。	・水溶液に関する事物・現象に進んで関わり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。

	4 章 物質の姿と状態変化			・身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、状態変化と熱、物質の融点と沸点についての基本的な概念や原理・法則などを理解していると共に、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・状態変化について、問題を見出し見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見い出して表現しているなど、科学的に探究している。	・状態変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
10 ～ 2	単元 4 身のまわりの現象 1 章 光の世界 2 章 音の世界 3 章 力の世界	デジタル教科書の活用 生徒用のタブレットの活用	26	・身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、身のまわりの物質とその性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解していると共に、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 ・音に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、音の性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解していると共に、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 ・力のはたらきに関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、力のはたらきについての基本的な概念や原理・法則などを理解していると共に、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・光について問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズのはたらきから規則性や関係性を見い出して表現しているなど、科学的に探究している。 ・音について、問題を見出し見通しをもって観察、実験などを行い、音の性質の関係性や規則性を見い出して表現しているなど、科学的に探究している。 ・力のはたらきについて、問題を見出し見通しをもって観察、実験などを行い、力のはたらきの規則性や関係性を見い出して表現しているなど、科学的に探究している。	・光に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 ・音に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 ・力のはたらきに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
2 ～ 3	3 章 地層から読みとる大地の変化	デジタル教科書の活用 生徒用のタブレットの活用	9	・大地のなり立ちと変化を地表に見られる様々な事物・現象と関連付けながら、地層の重なりと過去の様子について基本的な概念や原理・法則などを理解していると共に、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・大地のなり立ちと変化を地表に見られる様々な事物・現象と関連付けながら、地層の重なりと過去のようすについて基本的な概念や原理・法則などを理解していると共に、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・地層の重なりと過去の様子に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価材および評価方法				・定期テストと小テスト ・実験観察等への取り組み（レポートを含む）	・定期テスト ・実験観察等への取り組み（レポートを含む）	・授業への取り組み（ワークシートの内容やワークの取り組みを含む）

平行型 B

◎単元（１～数十時間の学習内容のまとまり）は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICT との関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学びに向かう態度
4 ～ 11	単元 1 いろいろな生物とその共通点 1 章 生物の観察と分類の仕方	デジタル教科書の活用 生徒用のタブレットの活用	2 7	・いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、生物の観察と分類の仕方についての基本的な概念や原理・法則などを理解していると共に、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・生物の観察と分類の仕方についての観察、実験などを通して、いろいろな生物の共通点や相違点を見い出すと共に、生物を分類するための観点や基準を見い出して表現しているなど、科学的に探究している。	・生物の観察と分類の仕方に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	2 章 植物の分類			・いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、植物のからだの共通点と相違点についての基本的な概念や原理・法則などを理解していると共に、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・植物のからだの共通点と相違点についての観察、実験などを通して、いろいろな植物の共通点や相違点を見い出すと共に、植物を分類するための観点や基準を見い出して表現しているなど、科学的に探究している。	・植物のからだの共通点と相違点に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	3 章 動物の分類			・いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、動物のからだの共通点と相違点についての基本的な概念や原理・法則などを理解していると共に、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・動物のからだの共通点と相違点についての観察、実験などを通して、いろいろな動物の共通点や相違点を見いだすと共に、動物を分類するための観点や基準を見い出して表現しているなど、科学的に探究している。	・動物のからだの共通点と相違点に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
11 ～ 3	単元4 大地の変化 1 章 火をふく大地	デジタル教科書の活用 生徒用のタブレットの活用	1 8	・大地のなり立ちと変化を地表に見られる様々な事物・現象と関連付けながら、火山活動と火成岩、自然のめぐみと火山災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解していると共に、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・火山、自然のめぐみと火山災害について、問題を見い出し見通しをもって観察、実験などを行い、地下のマグマの性質と火山の形との関係性、自然のめぐみや火山災害の火山活動の仕組みとの関係性などを見い出して表現しているなど、科学的に探究している。	・火山、自然のめぐみと火山災害に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	2 章 動き続ける大地			・大地のなり立ちと変化を地表に見られる様々な事物・現象と関連づけながら、地震の伝わり方と地球内部のはたらき、地震災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解していると共に、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・地震、地震災害について、問題を見い出し見通しをもって観察、実験などを行い、地震の原因と地球内部のはたらきとの関係性、地震災害と地震発生の仕組みとの関係性などを見い出して表現しているなど、科学的に探究している。	・地震、地震災害に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

評価材および評価方法	・定期テストと小テスト ・実験観察等への取り組み（レポートを含む）	・定期テスト ・実験観察等への取り組み（レポートを含む）	・授業への取り組み（ワークシートの内容やワークの取り組みを含む）
------------	--	---	--

令和8年度

1 学年 音楽科 年間指導計画・評価計画

担当 [佐藤真由子]

教 科 の 目 標	指 導 ・ 評 価 の 重 点 お よ び 工 夫 点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。	個人で考える時間を確保し、音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号について、曲想と音楽の構造と関わらせて理解させ、知識・技能の定着を図る。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きの生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	グループワークや ICT 機器を活用した授業を積極的に行っていくことで、生徒が自ら学ぶ内容に対し、主体的・協働的に取り組もうとしている。	スモールステップでの学習を中心とし、基礎的な知識・技能の定着を図る。また、技能試験・定期考査を実施し、振り返りの機会を与える。

◎単元（１～数十時間の学習内容のまとめり）は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICT との関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月	思いをこめて合唱しよう ・本校校歌(斉唱)	・端末の機能 (学習内容の復習や評価・フィードバック)	6	[知] 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 [技] 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	[思] 音色、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きの生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	[態] 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
5月	音楽の特徴に注目しながら、情景を思い浮かべよう ・春	・オーディオ機器の再生	2	[知] 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	[思] 音色、旋律、テクスチャ、強弱、形式を知覚し、それらの働きの生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	[態] 曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
	イメージと音楽の関わりを感じ取ろう ・ジョーズのテーマ ・Let's Create!	・オーディオ機器の再生	2	[知] 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。 [知] 音楽材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。 [技] 創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。	[思] 音色、リズム、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きの生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 [思] 音色、リズム、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きの生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	[態] 曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 [態] 音楽材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。

6月 7月	音のつながり方の特徴を生かして、創作表現を工夫しよう ・リズムゲーム、リズムアンサンブル、リズムチャレンジ	・端末の機能（学習内容の復習や評価・フィードバック）	5	〔知〕音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。 〔技〕創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。	〔思〕リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことで感じたこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	〔態〕音のつながり方の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。
	・合唱コンクールに向けて ・課題曲練習	・端末の機能（学習内容の復習や評価・フィードバック）	5	〔知〕曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 〔技〕創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。	〔思〕音色、速度、旋律、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことで感じたこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	〔態〕※曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
9月 10月	・合唱コンクールに向けて ・課題曲、自由曲練習	・端末の機能（学習内容の復習や評価・フィードバック）	10	〔知〕曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 〔技〕創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。	〔思〕音色、速度、旋律、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことで感じたこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	〔態〕※曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
	曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう ・魔王	・オーディオ機器の再生	2	〔知〕曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	〔思〕音色、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことで感じたこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	〔態〕曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
11月	日本の歌のよさや美しさを感じ取って、歌唱表現を工夫しよう ・赤とんぼ	・オーディオ機器の再生	4	〔知〕曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 〔技〕創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	〔思〕リズム、旋律、強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことで感じたこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	〔態〕曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
12月	日本に古くから伝わる合奏に親しみ、その魅力を味わおう ・雅楽「平調 越天楽」	・オーディオ機器の再生	2	〔知〕曲想と音楽の構造との関わり、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解している。	〔思〕音色、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことで感じたこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	〔態〕曲想と音楽の構造との関わり、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
1月～ 3月	箏曲の特徴を感じ取って、その魅力を味わおう ・箏曲「六段の調」 ・さくらさくら ・My Melody	・端末の機能（学習内容の復習や評価・フィードバック）	8	〔知〕音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解している。 〔知〕楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解している。 〔技〕創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。 〔知〕音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。 〔技〕創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。	〔思〕音色、速度、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことで感じたこととの関わりについて考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 〔思〕音色、速度、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことで感じたこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 〔思〕音色、速度、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことで感じたこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	〔態〕音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 〔態〕楽器の音色や響きと奏法との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。 〔態〕音のつながり方の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。
評価材および評価方法				実技試験、定期考査、ワークシートへの取り組み状況	実技試験、定期考査、ワークシートへの取り組み状況	実技試験、定期考査の記述内容、授業及びワークシートへの取り組み状況、

令和8年度

1 学年 美術科 年間指導計画・評価計画

担当〔岡田 恭子 〕

教 科 の 目 標	指 導 ・ 評 価 の 重 点 お よ び 工 夫 点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。	- ICT 機器や板書、ワークシート、参考作品等を活用し、様々な作品やアーティスト、表現方法に触れる機会を設定し、より広い美術的知識を定着させる。 - 定期的に生徒同士の作品鑑賞の時間を設け、互いの良さや工夫に気付く授業を行う。	- 基礎課題から発展課題のように関連した教材の設定。 - 題材ごとに発想構想から制作、発表鑑賞の工程を踏まえて計画的に授業を行う。 - ICT 機器や参考作品を活用し、生徒の思考を広げる活動を行う。	- ICT 機器を積極的に活用し、美術作品をより身近に感じるものとして体感的に楽しむことができる授業を行う。 - 定期的に生徒同士の作品鑑賞の時間を設け、主体的、協働的に学ぶ環境を作る。	- 個々の生徒の学習状況・能力に応じた目標の設定及び評価の工夫を行っていく。 - ワークシートや授業振り返りシートを活用し、生徒の学習状況の評価を適切に行う。

◎単元(1～数十時間の学習内容のまとめり)は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICT との関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
4	広げよう見て書く楽しみ 「オリエンテーション」 ・鉛筆スケッチ ・鉛筆の使い方 鑑賞 絵画など	大型モニター 実物投影機	2	○モチーフをしっかりと観察し鉛筆でグレースケールを理解しながら陰影を付け写実的に描くことができる。 ○様々な作品を鑑賞し表現の多様性に気付くことができる。	○自分なりに工夫を感じたことを表現しようとしている。	○表現活動を支える感覚や感動の大切さに気付いている。 ○作品や作者と出会い、美術を学ぶ楽しさや表現活動に意欲的に取り組める。
4	自然物を観察し、特徴を捉える。 鑑賞など	大型モニター 実物投影機	1	○日本及び諸外国の美術作品を鑑賞し、様々な表現や伝統について理解できる。	○様々な美術作品を鑑賞しながら形や色の使い方に注目し、作品を味わうことができる。	○自然を取り入れた美術について関心を持つことができる。
4 ～ 6	「絵文字」 デザイン 色彩 鑑賞など	大型モニター 実物投影機	12	○形や色彩などの性質及び、それらが感情にもたらす効果や構成の美しさなどを基に、分かりやすさと美しさを全体のイメージでとらえることを理解している。 ○視覚的な効果を考え、色を選択し、創意工夫することができる。 ○筆の使い方、色の選択を工夫することができる。 ○形や色、文字の表わし方を身に付け、表したいイメージをもちながら意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫している。	○筆の使い方、色の選択を工夫し、丁寧に効果的な表現をすることができる。 ○色彩効果の工夫をし、平面構成をしている。 ○形や色彩の特徴や美しさを基に、創造的な構成を工夫することができる。	○美術の創作活動の喜びを味わい、主体的に構図や表現法などを意図に応じて創意工夫したり、創造的に表現したりする活動に取り組もうとしている。
7 ～ 11	点描画「ありえない世界」を描こう 絵画 鑑賞など	大型モニター 実物投影機	15	○想像画・抽象画について理解し、発想の多様さを理解できている。 ○点描の打ち方の種類を理解し、計画的に作業ができる。	○ありえない世界に発想の重点を置き、主題にあった構図を表現できる。	○美術の創作活動の喜びを味わい、主体的に構図や表現法などを意図に応じて創意工夫したり、創造的に表現したりする活動に取り組もうとしている。

夏休	「エコポスター」 (公募作品) 色彩 デザイン			○視覚的な効果を考え、丁寧に、創意工夫して表現している。 ○伝えるという目的、形や色彩などの美しさやよさを考え、創意工夫することができる。	○テーマに沿った発想から伝えたい内容について分かりやすさや美しさを考え、効果的な構想を練ることができる。 ○色彩効果の工夫をし、平面構成をしている。	○ポスターデザインについて関心をもち、主体的に主題を生み出し、材料や用具の生かし方を工夫している。
11 ～ 3	「暮らしの中の木の工芸品」 立体表現 彫刻 デザイン	大型モニター 実物投影机	15	○木の質感や特性、形や色が感情をもたらし効果やぬくもりなどを全体のイメージで捉えることができる。 ○木の加工方法などを身に付け、意図に応じて工夫し、制作の順序など考えながら見通しを持って表すことができる。	○木の特性や美しさを基に、使う場面や使う人の気持ちなどから主題を生み出し、使い易さと美しさなどとの調和を考え表現する構想を練ることができる。 ○素材の特徴や美しさを基に、創造的な構成を工夫することができる。	○美術の創作活動の喜びを味わい、主体的に構図や表現法などを意図に応じて創意工夫したり、創造的に表現したりする活動に取り組もうとしている。
評価材および評価方法				・授業観察・途中及び完成作品 ・定期考査 ・ワークシート	・授業観察・アイデアスケッチ・途中及び完成作品 ・定期考査 ・ワークシート	・授業観察・提出作品 ・ワークシート

令和8年度 1学年 技術・家庭科（家庭分野） 年間指導計画・評価計画

担当 [瀧澤乃彩]

教科の目標	指導・評価の重点および工夫点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、より良い生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。	・ICT 機器教材や配付資料等を通して、視覚的・体感的に学べる授業を行い、基礎・基本の定着を図る。 ・作業が遅れがちな生徒には、個別に対応する時間を確保し、支援員と協力するなどして取り組ませる。	・家庭での実践、体験学習、調べ学習などを通して、学習の連続性をもたせる。 ・ICT 機器を活用して他者との意見や考えを共有し、様々な視点から生活の中にある家庭科について考察する。実習でも、他者との意見交換をしながら行えるようにする。	・体験的な活動を取り入れ、実生活につながる授業を構築する。 ・タブレット PC を積極的に活用し、視覚的・体感的に学べる授業を行う。 ・1時間ごとの目標を提示し、振り返りシートを活用して目標の達成具合を確認する。	・個々の生徒の学習状況・能力に応じた目標の設定及び評価の工夫を行っていく。 ・ワークシートや実習振り返りシートを活用し、生徒の学習状況の評価を適切に行う。

単元（1～数十時間の学習内容のまとまり）は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICT との関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	A ガイダンス 自分の成長と家族・家庭生活	タブレット	1	○小学校家庭科の学習をふり取り、3年間の学習の見通しをもつことができる。	○家族との関わりについて問題を見いだして課題を設定している。	○家族との関わりについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
5	B 衣食住の生活 食生活	プロジェクター	10	○自分の生活は、家庭内外の活動によって支えられていることを理解している。	○自分の食習慣について問題を見い出して課題を設定している。	○自分の食習慣について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
6	1 人間にとっての食事 2 食品と栄養素	実物投影機		○生活の中で食事が果たす役割について資料を基に理解している。	○自分の食習慣について解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを表現している。	○より良い食生活に向けて、自分の食生活について、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
7	3 中学生に必要な食事 4 日常食の調理と地域の食文化			○健康によい食習慣について資料を基に理解している。	○中学生の1日分の献立について問題を見い出して課題を設定している。	○中学生に必要な栄養を満たす食事について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
夏休	朝ごはんコンクール（食育）					
9	衣生活		8	○製作するものに適した材料や縫い方について理解していると共に、用具を安全に取り扱いながら製作することができる。	○生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを表現している。	○より良い生活の実現に向けて、生活を豊かにするための布を用いた物の製作について、主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
10	3 生活を豊かにするものの製作		8	○食品や調理器具等の安全と衛生について理解していると共に、適切に扱うことができる。	○日常の1食分の調理の仕方や調理計画について課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを表現している。	○日常の1食分の調理について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
11	食生活			○材料に適した加熱調理の仕方について理解していると共に、基礎的な日常食の調理が適切にできる。	○和食の調理について問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを表現している。	○食品の選択について、課題の解決に主体的に取り組んでいる。
12	4 日常食の調理と地域の食文化					
1	5 献立づくり		2	○地域の食文化について理解し、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできる。	○食品の選択について問題を見い出して課題を設定している。	○和食の調理について、主体的に生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
2	住生活		6	○住居の基本的な機能や家族生活と住空間との関わりについて資料を基に理解している。	○住生活について問題を見い出して課題を設定し、家族の安全を考えた住空間の課題について、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを表現している。	○家族や地域の人々と協働し、より良い生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
3	1 人間にとっての住まい 2 生活に必要な住空間 3 自然とともにある住生活 4 安全で健康的な住生活			○家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。		
評価材および評価方法				定期考査・授業プリント・作品・実習	定期考査・授業プリント・作品・実習	振り返りシート・授業プリント・作品・実習

令和 8 年度

1 学年 保健体育科 年間指導計画・評価計画 担当 [伏田・近藤・服部]

教科の目標・	指導・評価の重点および工夫点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。	運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。	単元当初での診断的評価を基に、学習の重点項目を検討し、学び合いにより集団全員の学びの充実を図る。 単元半ばに技能テストを実施し、技能の習得状況をフィードバックした上で、集団技能や発展技能の習得を目指すことで、積み上げを可能とする。 写真や動画を PC で撮影し、模範との比較レポートやデータからの分析を行うことで理解を深める。

単元（１～数十時間の学習内容のまとめ）は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICT との関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学びに向かう態度
4 6	体づくり運動	○ ICT 機器で明示された目標、授業の流れを確認し、学ぶべき内容をイメージ化する。また、学習の効率化を図り、課題に取り組む時間をより多く確保する。	8	(知識) 「技能」の評価基準は設定しない。 ・体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などについて理解している。 (運動) 手軽な運動を行い、心と体との関係や心身の状態に気付き、仲間と積極的に関わり合うこと。	・自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・体づくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする、話し合いに参加しようとするなどをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。
4 5	ダンス (フォークダンス) (日本の民謡)	○ プレゼンテーションソフトや画像などを通して興味関心をもつ。また、課題の明確化や解決の効率化、及び探究するための資料として活用する。	8	(知識) ダンス単元共通 ・ダンスの特性や由来、表現の仕方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 (技能) ・民舞や外国の踊りから、それらの踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊ることができる。	・表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、交流などの話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとするなどをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。
4 5	陸上競技 (短距離走・リレー)	○ フォトリレーの実施を通して、感じ、読み解くなどの想像力を高め、多様な感じ方があることに気付く。	8	(知識) 陸上競技共通 ・陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 (技能) ・滑らかな動きで速く走ることやバトンの受け渡しでタイミングを合わせることができる。	・動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。
7 9	器械運動 (マット運動)	○ 学習ソフトを活用し、技の例示を通して学習する技の合理的な動き方のポイントを理解したり、自己の技能・体力の程度に適した課題を明らかにしたりする。	8	(知識) ・器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 (技能) ・回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることができる。	・技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・器械運動に積極的に取り組むとともに、良い演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。
7 9	水泳 (クロール・平泳ぎ・背泳ぎ)		10	(知識) ・水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 (技能) ・クロールでは手と足の動き、呼吸のバランスを取り速く泳ぐことができる。 ・平泳ぎでは手と足の動き、呼吸のバランスを取り長く泳ぐことができる。 ・背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを取り泳ぐことができる。	・泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどをしたり、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配ったりしている。

9 10	球技 (バレーボール)	○タブレット端末を活用した動画比較を通して、巧緻性を高めたり、問題を解決したりするための資料とする。また、協働による学習活動での活用を通して、仲間の学習を援助するなどの態度を身に付ける。 ○後追い再生機能付きAV機器の活用を通して、自己の演技を確認し、巧緻性を高めたり、課題を明確にしたりするための資料とする。 上記すべての内容を、各単元の学習内容に応じて、適宜活用する。	6	(知識) 球技単元共通 ・球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 (技能) ・ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。	・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・球技に積極的に取り組むとともに、フェアプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどをして、健康・安全に気を配ったりしている。
9 10	球技(ゴール型) ハンドボール		6	(技能)・ボール操作と空間を使った動きによってゴール前での攻防ができる。		
11 12	ダンス (現代的なリズムのダンス)		8	(技能) ・多様なテーマから表したいイメージを捉え、動きに変化をつけて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ることができる。	・表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、交流などの話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとするなどをして、健康・安全に気を配ったりしている。
11 12	体育理論		3	(知識) ・運動やスポーツが多様であることについて理解している。 「技能」に関わる評価対象がないことから設定しない。	・運動やスポーツの多様性について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	・運動やスポーツが多様であることについての学習に積極的に取り組もうとしている。
12 1	陸上競技 (持久走)		6	(技能) ・持続して走る力をつけることで体力を向上させる。	・動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどをして、健康・安全に気を配ったりしている。
1 12	陸上競技 (走り幅跳び) (走り高跳び)		6	(技能) ・リズムカルな助走から力強く踏み切り大きな動作で跳ぶことができる。		
12 1 2 3	武道 (柔道)		6	(知識) ・武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 (技能) ・相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、投げたり押さえたりするなどの簡易な攻防をすることができる。	・柔道の特性を踏まえた自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどをして、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ったりしている。
2 3	球技 (ソフトボール等)		6	(技能) ・安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができる。	・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・球技に積極的に取り組むとともに、フェアプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどをして、健康・安全に気を配ったりしている。
6	保健 (健康な生活と疾病の予防)	6	(知識) 「技能」に関わる評価対象がないことから設定しない。 ・健康は主体と環境の相互作用のもとに成り立つこと、疾病は、主体の要因と環境の要因が関わりあって発生すること、健康は運動や食生活、休養などの調和をとった生活を続けることが必要であることを理解している。	・課題を発見し、その解決に向けて試行し判断しているとともにそれらを表現している。	・健康な生活と疾病の予防についての学習に自主的に取り組もうとしている。	
12 1 2 3	保健 (心身の機能の発達と心の健康)	8	(知識・技能) ・身体の発育や発達の時期や程度、個人差について理解している。 ・生殖に関わる機能の成熟について、性差や個人差、及び性に関する適切な態度や行動の選択の必要性を理解している。 ・精神機能の発達と自立との関連性、及び自己形成と社会性の発達との関連性について理解している。 ・精神と身体との関わり、及び欲求やストレスを感じる経緯や対処の仕方を理解し、リラクゼーションの摂り方を行うことができている。	・心身の機能の発達と心の健康に関わる事象や情報から課題を発見し、その解決に向けて習得した知識を活用している。また選択した解決方法を他者に伝えている。	・心身の機能の発達と心の健康について課題を発見し、その解決に向けた活動、及び学習を振り返る活動を積極的に取り組んでいる。	
	評価材および評価方法			・授業観察 ・学習プリント ・定期考査 ・実技テスト ・小テスト ・記録会 ・発表会 ・体力テストの記録 ・授業レポート	・授業観察 ・学習プリントの内容 ・定期考査 ・授業レポートの内容	・授業観察 ・学習プリントの内容 ・授業レポートの内容 ・定期考査

令和8年度

1 学年 技術科 年間指導計画・評価計画（第1版）

担当 [西本 敬助]

教科の目標	指導・評価の重点および工夫点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指す。	・ICT 機器教材や配付資料等を通して、視覚的・体感的に学べる授業を行い、基礎・基本の定着を図っていく。 ・作業が遅れがちな生徒には個別に対応する時間を確保し、取り組ませていく。	・家庭での実践、体験学習、調べ学習などを通して、学習の連続性をもたせる。 ・小学校との接続を大切にし、既習事項との関連を図り、活用させる。 ・ICT 機器を活用して他者との意見や考えを共有し、様々な視点から生活の中の技術について考察する。	・タブレットを積極的に活用し、視覚的・体感的に学べる授業を行う。 ・目標を提示し、終末に振り返りシートを活用して目標の達成具合を確認する。	・個々の生徒の学習状況・能力に応じた目標の設定及び評価の工夫を行っていく。 ・ワークシートや実習振り返りシートを活用し、生徒の学習状況の評価を適切に行う。

単元（1～数十時間の学習内容のまとまり）は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICT との関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	ガイダンス 1 技術を見つけよう 2 技術とわたしたちの生活 (1) 技術の進展と生活・産業 (2) 資源の有効利用と環境 (3) 持続可能な社会と共生	・モニター、 タブレット	3	○生活や産業、環境と関わりながら技術が発展してきたことを理解している。 ○技術の発展とともに発生した環境問題について理解している。	○過去、現在の技術に込められた問題解決の工夫について考えている。 ○環境問題について理解し、その対策・解決方法を考えている。	○図画工作などの小学校の既習事項から、これからの学習の見通しをもつことができる。 ○様々な技術を理解し、技術が果たす役割について考えようとしている。
5	A 材料と加工の技術 1 ものづくりの工夫と進め方	・モニター、 タブレット	2	○生活や社会、環境との関わりを踏まえて、材料と加工の技術の概念を理解している。 ○製作品に用いる材料の特徴と利用方法や加工法について理解している。 ○材料の特徴と利用方法を理解している。 ○工具の仕組みや使用方法について理解している。 ○製作品の目的と材料に適した加工を選択する技能を身に付けている。 ○製作品の機能、構造を考えた製作図を作成する技能を身に付けている。 ○等角図や第三角法などを用いて製作に必要な図を書く技能を身に付けている。	○生活の中から材料と加工の技術と機能、構造に関わる問題を見出して、材料の特徴に関する課題を設定できる。 ○課題の解決策となる材料、大きさ、形状、構造などを、使用場所や加工方法などの制約条件に基づいて構想し、設計や計画を具体化できる。	○生活の中で技術の果たしている役割について考え、検討しようとしている。 ○自分の設計について、より良い製作品にするための手段や方法を学んだことを活かして主体的に取り組もうとしている。
6	2 材料					
7	(1) 様々な材料 (2) 材料の特徴 3 設計 (1) 設計の進め方 (2) 製作品の決定 (3) 製図					
8	(夏休み)					
9	4 製作実習 (1) けがき	・モニター、 タブレット		○工具や機器を安全に使い、製作品の部品加工、組み立て及び仕上げをする技能を身に付けている。 ○安全・適切な製作や製作品の検査・点検を	○設計に基づく能率的な作業方法を適切に選択できる。 ○完成した製作品が設定した課題を解決できるかを評価するとともに、設計や製作の過程対	○工具の仕組みに関心をもち、適正に活用しようとしている。 ○製作品の製作に、主体的に取り組もうとしている。
10	(2) 切削 (3) 部品の検査と修正					

1 1	(4)組み立て (5)評価		する技能を身に付けている。	する改善及び修正を考えることができる。	○安全で快適な生活や社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んでいる。
1 2					
1 B	生物育成の技術	・モニター、 タブレット	1 0	○生物育成の技術が育成する生物の成長の変化をとらえ、育成する生物に応じた問題を見出し課題を設定できる。 ○課題の解決策と、作物の条件から適切な栽培方法を選択し、栽培計画を元に合理的な解決策を見出すことができる。	○生物育成または栽培技術について、生活との関係に関心をもって主体的に学習しようとしている。 ○国や地域ごとの風土や環境によって生育方法が異なることを活用して栽培方法を主体的に検討しようとしている。 ○安全で快適な生活や社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んでいる。
1 1	わたしたちの生活と生物				
2 育成	2 生物育成の計画・管理方法				
3 法	(1) 作物の栽培・管理 (2) 家畜の飼育・管理 (3) 水産生物の飼育・管理 3 実習 (1) 栽培実習				
評価材および評価方法			・ 定期考査 ・ ワークシート ・ 作品	・ 定期考査 ・ ワークシート ・ 作品	・ 課題への取り組み ・ ワークシート ・ 作品

令和 8 年度

1 学年 英語科 年間指導計画・評価計画

担当 [阿部大介・木内直美]

教 科 の 目 標	指 導 ・ 評 価 の 重 点 お よ び 工 夫 点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通じて、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。 (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあったりすることができる力を養う。 (3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	授業内で小テストを実施し、家庭で取り組む課題を出すことにより、復習の定着を図る。 ICT 機器や補助教材を活用し、単語や熟語、文法の定着を計る。 長期休業明けのプリント学習や確認テスト等で、単語や文法の定着を図る。	知識・技能を活用し、場面や状況に応じて使う表現を選択し自己でできる力を育成する。 授業の内外で教室英語を日常化し、英語に慣れ親しませる。 外国語を使って、互いの考えや気持ちを伝えあうなどの言語活動を通して、生徒が主体的に考え、仲間と対話しながら、考えを深めていく。	評価の観点をできるだけ明確に示して、生徒が意欲や目標をもって課題に取り組むようにする。 ALT との授業の中で生きた英語を身につけさせるために様々な表現活動を行う。 長期休業明けに行う小テストやプリントからその評価や学習を経て生徒が自らの学習過程を振り返り、目標や課題をもって学習していけるように指導する。	パフォーマンステストや定期考査において、振り返りの機会を設定し、個に応じたフィードバックを心がける。 生徒の学習に対する粘り強さや調整力を単元ごとにフィードバックを行うことで、次の課題に進めるようにする。

単元（１～数十時間の学習内容のまとまり）は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

(L) = 聞く. (R) = 読む. (SI) = 話す (やり取り). (SP) = 話す (発表). (W) = 書く

月	単元・教材	ICT との関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	Let ' s Be Friends!	せせ生を用年 る、徒活い間 る。主用、を 体タし、通 的デ通 的ブジ で授タ 対業レ 話バ 的ソ なコ 効書 学果 習的 にそ 取の 組他 まソ さフ トを	12	アルファベットの太文字と小文字を聞いて書きとることができる。(L/W) 英語の音とつづりの関係を考えて、基本的な単語を聞き取ったり言ったりすることができる。(L/SI)	好きな色について聞き取ったり、話したり書いたりすることができる。(L/SI/W) 行きたい国について聞き取ったり、話したり書いたりすることができる。(L/SI/W) 数を表す言葉を読んだり聞いたり言ったりすることができる。(R/L/SI) 誕生日について聞き取ったり、話したり書いたりすることができる。(SI/W)	お互いの気持ちをたずね合ったり、会話を聞いて場面を考えたりしようとしている。(L/SI)
4 5	Unit 1 Here We Go!		10	・会話からその人の情報を聞き取ることができる。(L) ・I ' m ~ . I (don ' t) like ~ . I can / can ' t ~ . の構文について正確に理解している。(L/SI)	・自己紹介カードに、自分の情報を書くことができる。(W) ・登場人物が自己紹介カードを作っている場面の会話から、必要な情報を聞き取り、適切に理解している。(L)	・登場人物が自己紹介カードを作っている場面の会話から、必要な情報を聞き取ろうとしている。(L) ・自己紹介カードに自分についての情報を積極的に書こうとしている。(W)

月	単元・教材	ICT との関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5	Unit 2 Club activities	年間を通じてパソコン、タブレットを用い、デジタル教科書やその他ソフトを活用して授業を行う。	12	・会話から、好みや得意なことなどを聞き取ることができる。(L) ・Are you ~? Do you ~? Can you ~? の構文について正確に理解している。(L/SI)	・好みや得意なことなどを聞き取り、適切に理解している。(L) ・好きなことや得意なことなどについて、たずね合うことができる。(SI)	・会話から登場人物の好みや得意なことなどを聞き取ろうとしている。(L) ・相手に合う部活動を診断するために、積極的に質問しようとしている。(SI)
	World Tour 1 世界の中学生		1	・How many ~?やHow do you ~?の構文について正確に理解している。(L/SI)	・自分たちとの共通点や相違点に気づくために、インタビューから世界の中学生の生活の様子を聞き取り、適切に理解している。(L)	・世界の挨拶や、中学生の生活の様子を知ろうとしている。(L)
6	Unit 3 Enjoy the Summer		12	・インタビューから、したいことなどを聞き取ることができる。(L) ・What do you ~? の構文、動詞の-ing 形 want to ~ の表現について正確に理解している。(L/SI)	・インタビューからその人物が夏休みにしたいことを聞き取り、適切に理解している。(L) ・夏休みにしたいことについて適切な質問をしてアンケートを取っている。(L/SI)	・インタビューからその人物が夏休みにしたいことを聞き取ろうとしている。(L) ・夏休みにしたいことについて、アンケートを取ることができる。(SI)
7	Let 's Read 1 What A I?		1	・I を主語とした一般動詞や can を使った文の意味を正確に理解している。(R)	・説明文から、“ ” についての情報を読み取ることができる。(R)	・What am I?の答えを知るために、説明文から “I” についての情報を読み取ろうとしている。(R)
	Active Grammar 1		1	・自分と相手のことを伝える言い方を整理しようとしている。(L)		
	You Can Do It! 1		3		・自分のことを知ってもらうために、伝えたいことを整理して自己紹介をしている。(SP)	・自己紹介で共通点・相違点を見つけようとしている。(R/SP)
夏休				・基礎基本の定着をワーク等で行う。(W)		
9	Unit 4 Our New Friend		12	・人物紹介から、基本的な情報を聞き取ることができる。(L) ・3 人称単数を主語とする be 動詞の文や Who 's ~? の構文について正確に理解している。(L/SI)	・会話から人物の基本的な情報を聞き取り、適切にメモを取っている。(L/W) ・身近な人などについて、基本的な情報を紹介することができる。(SP)	・会話から人物の基本的な情報を聞き取り、メモを取ろうとしている。(L/W) ・その人物が誰か、紹介の仕方を工夫しようとしている。(SI)
	Daily Life 1 落とし物		2	・whose で始まる疑問文や「~のもの」という言い方について正確に理解している。(SI)	・落とし物の持ち主を探すやり取りができる。(SI)	
10	Active Grammar 2		1	・人や物事の代わりをする言葉を整理しようとしている。(L)		
	Unit 5 Hi! David!		12	・where や when で始まる疑問文や命令文について正確に理解している。(L/SI)	・学校公開の案内状から、時間や場所などを読み取ることができる。(R) ・お気に入りの学校内の施設について、たずね合うことができる。(SI)	・学校公開の案内状から必要な情報を読み取ろうとしている。(L) ・お気に入りの校内施設について積極的にたずね合おうとしている。(SI)
	Daily Life 2 注文		2	・Can I ~?, Which ~ or ~?, How much ~? という言い方について正確に理解している。(SI)	・飲食店で、注文をするやり取りができる。(SI)	
11	Unit 6 Cheer Up, Tina		12	・3 人称単数を主語とする一般動詞を使った肯定文・疑問文・否定文について正確に理解している。(L/SI)	・紹介文から、その人物が誰かを読み取ることができる。(R) ・身近な人の基本的な情報を伝える、紹介文を書くことができる。(W)	・紹介文を読んで内容を理解しようとしている。(R) ・クラスの友達にその人のよさが伝わるように、紹介文を書こうとしている。(W)
	Daily Life 3 バス停		2	・What time ~? を使った時刻の尋ね方や時刻の言い方を理解している。(SI)	・バス停で観光客を助けるために、相手を気遣う言葉をかけたり、バスの行先や時刻についての質問に答えたりするやり取りができる。(SI)	
	Active Grammar 3		1	・自分と相手以外のことを伝える言い方を整理しようとしている。(L)		

月	単元・教材	ICT との関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 2	Daily Life 4 道案内	年間を通じてパソコン、タブレットを効果的に活用させ、主体的で対話的な学習を取り組ませる。デジタル教科書やその他ソフトを活用して授業を行う。	1	・How ～? を使った行き方の尋ね方や、How long does it take ～? を使った所要時間のたずね方など、道案内特有の表現の意味・使い方を理解している。(SI)	・海外からの観光客に伝わるように、目的地までの道順や所要時間についての質問に答えたり、相手を気遣う言葉をかけたりするやり取りをしている。(SI)	
	Active Grammar 4		1	・yes や no では答えられない疑問文を整理しようとしている。(L)		
	You Can Do It! 2		3		・ゲストの魅力を動画の視聴者に伝えるために、伝えたい情報を整理して、ゲストを呼び込むときに使う台本を書いている。(L/SP)	・ゲストの魅力を動画の視聴者に伝えるために、伝えたい情報を整理して、ゲストを呼び込むときに使う台本を書こうとしている。(SP)
1	Unit 7 The New Year in Japan		12	・一般動詞の過去形を使った肯定文、疑問文、否定文や be 動詞の過去形について正確に理解している。(L/SI)	・はがきから、出来事や感想などを読み取ることができる。(R) ・冬休みの出来事や感想などを伝える、はがきを書くことができる。(W)	・はがきから出来事や感想を読み取るとともに、はがきの書き方を理解しようとしている。(R/W) ・冬休みの出来事や感想をはがきに書こうとしている。(W)
2	Active Grammar 5		1	・過去の出来事や状態などを伝える言い方を整理しようとしている。(L)		
	Daily Life 5 イベントの案内		1	・日付や場所、金額の表す表現や語句、助動詞 can や命令形の意味や働きなどを理解している。(R)	・友達の質問に答えるために、イベントの案内から、必要な情報を読み取っている。(R)	
	Unit 8 Getting Ready for the Party		12	・写真の説明から、その場の状況を聞き取ることができる。(L)	・写真に、状況を説明するキャプション(写真や挿絵に添えた説明文)を書くことができる。(W)	・自分が選んだ写真について伝えるために、その場写真の状況を適切な表現で書こうとしている。(W)
3	World Tour 2 世界の中学生		1	・既習の表現・語句の意味や働きの理解をもとに、1日の過ごし方について紹介する動画の内容を聞き取る技能を身につけている。(L)	・世界の中学生について知るために、その人の1日の過ごし方などを紹介する動画を見て、おおまかな内容を捉えている。(L)	・世界の中学生について知るために、その人の1日の過ごし方などを紹介する動画を見て、おおまかな内容を捉えようとしている。(L)
	Active Grammar 6		1	・している最中のことを伝える言い方を整理しようとしている。(L)		
	Let 's Read 2 The Lion and the Mouse		4	・一般動詞の過去形や look + 形容詞について正確に理解している。(R)	・物語から、あらすじを読み取ることができる。(R)	・ライオンを助けたネズミの気持ちや、ネズミに助けられたライオンの気持ちについて積極的に発言している。(R)
	You Can Do It! 3		2		・自分の学校の魅力を伝えるために、伝えたい情報を整理して、学校を紹介することができる。(R/SP)	・自分たちの学校のよいところが伝わるように、学校行事を紹介しようとしている。(SP)
	Let 's Read More My Japanese Lessons		2	・動詞の現在形の文や過去形の文を理解している。(R)	・レポートから、筆者の体験に基づく感想などを読み取ることができる。(R)	・日本語と英語の違いについて考え、言語と文化に対する理解を深めている。(R)
	Sounds and Letters Story Retelling Let 's Talk!		4	・文字を正しく読むことができる。(R)	・ストーリーについて、簡単な語句や文を使い、その場で話すことができる。(SP)	・自分や相手のことについて、その場でやり取りしようとしている。(SI) ・自分が言いたいことを伝えるための語彙を探して活用しようとしている。(W/SI)
	Active Words					
評価材および評価方法				○定期テスト、スプリングコンテスト ○英作文 ○質問に対する応答 ○発表	○定期テスト ○リスニング ○英作文 ○発表	○振り返りシート ○ノート、ワーク等提出物 ○発表の態度 ○授業やオンライン課題への取り組み